

技術士だより・九州

公益社団法人 日本技術士会九州本部 秋季号<第133号> (令和4年10月15日発行)



あ

嵐の跡が 残った地層 遠見ヶ鼻



い

生きた化石 カブトガニ棲む 曽根干潟



か

河原石 みんなで積んだ 眼鏡橋



ひ

平尾台 羊群原は 石灰岩

多様なジオ（大地）が広がる北九州

北九州には約3億年以上前から現代までの多様な大地（ジオ、地質）を見ることができます。様々な大地は珍しい景観を作り、多様な生物を育み、文化や産業を生み出してきました。

北九州市のまちの発展は、官営八幡製鐵所の立地に始まりますが、製鐵所の用地選定には、近隣の石炭資源や港湾機能の優位性、土地の安定性など、大地が関係しています。

ジオ&バイオ研究会では、このような大地と人のつながりを学際的に研究し、地元北九州の魅力として市民に伝える活動をしています。一方で、ジオの領域は専門用語が多く馴染みにくいため、このたび、これらのジオスポットを楽しく紹介する「ジオかるた北九州」を作成しました。

八百屋 さやか（衛生工学・北九州）

目

巻頭言	1
私の提言	2
声の広場	3
熟練技術士の声	5
若手技術士の声	6
企業内技術士の声	7
修習技術者の声	8
私のチャレンジ	9
地域の話	10
土木遺産シリーズ (29)	13

次

ミニ特集	15
九州本部 青年技術士交流委員会 会員募集	18
追悼記事	19
中央・統括本部情勢	21
委員会・部会報告	22
CPD	30
支部だより	33
会員ニュース	34
協賛団体会員	35

災害からの復旧・復興と 熊本の将来の発展に向けて

かめざき なおたか
熊本県土木部長 亀崎 直隆
(建設、総合技術監理・熊本)



熊本県は、平成28年熊本地震や令和2年7月豪雨等による大規模災害に見舞われ、皆様には、今なお九州各地より多大なる御支援を賜っておりますことに、心より深謝申し上げます。

現在、創造的復興に向けた取組みを更に加速させるとともに、国土強靱化や幹線道路ネットワークの整備など、将来に向けた取組みを着実に進めています。

令和2年7月豪雨災害からの復旧・復興については、国等の支援を受けながら、豪雨で流失した橋梁10橋を含む国道219号や県道等の復旧、地元の皆様から要望の多かった河川の堆積土砂の撤去等を進めてきました。

一方で、球磨川流域では、今なお1,000世帯以上の方が仮設住宅等で生活されており、一日も早いすまいの再建を目指しています。今年度、地元球磨地域振興局土木部に新たにまちづくりの組織を設置しました。復旧・復興をけん引する人吉市の土地区画整理事業や球磨村の被災住宅移転促進宅地整備事業について、市や村と連携し、被災者に寄り添いながらスピード感をもって進めて参ります。

また、緑の流域治水については、国と連携しながら進めてきた球磨川水系河川整備計画について、8月9日に策定・公表しました。今後、国や流域市町村と連携しながら、河道掘削や宅地かさ上げ、砂防施設等の整備、並びに流域タイムライン等の防災・減災力強化など流域治水の取組みを推進して参ります。

熊本地震からの創造的復興については、阿蘇へのアクセスルートの回復として、国道57号北側復旧道路や国道325号新阿蘇大橋等が開通し、八代港では、国際クルーズ拠点としてクルーズ船専用岸壁（一部耐震強化岸壁）が完成しました。現在、益城町の復興まちづくりに向け、県道熊本高森線の4車線化や土地区画整理事業の早期完成に向けて取り組んでいます。4車線化については、約9割の用地取得が完了し、工事の進捗を図っています。また、区画整理事業については、約7割の仮換地指定を終え、順次、宅地造成工事を行っています。

このように災害からの創造的復興を進めながら、50年後、100年後の更なる熊本の発展のために、国土強靱化対策や幹線道路ネットワークの整備、港湾機能の強化等の取組みを推進していく必要があります。

まず、安心安全なくまもとづくりのために、気候変動を踏まえた水災害対策や老朽化が進む社会インフラの維持管理・補修等について、「5か年加速化対策」等の予算を活用し災害に強い県土づくりを目指して参ります。

次に、すべての道はくまもとに通じるという考えのもと、国や隣接県、市町村と連携し、災害に強いダブルネットワークの形成等を図るために幹線道路ネットワークの整備を推進して参ります。今年度は、九州の横軸となる九州中央自動車道の「矢部清和道路」と中九州横断道路の「大津熊本道路（大津西～合志）」が新規事業化されました。今年度内には、天草上島と下島を結ぶ熊本天草幹線道路の「本渡道路」が開通予定です。

このような中、中九州横断道路沿線の菊陽町に、世界的半導体メーカー TSMCの関連会社JASMの工場が立地し、令和6年末には製品出荷が開始される予定です。この地域では、今後更なる企業集積が見込まれます。県としては、地元自治体等と連携し、中九州横断道路の整備と合わせて、新たに工場周辺やICへのアクセス道路など周辺道路網の整備を進めていくことを7月に公表し、今後整備を加速させて参ります。

また、熊本都市圏においては、昨年6月に熊本市中心部から九州縦貫自動車道までを約10分、熊本空港までを約20分で結ぶ「10分・20分構想」を掲げ、新たな高規格道路3路線を位置づけました。昨年11月には、知事と熊本市長が「実現に向けて連携して取り組むこと」を合意し、今年度は、概略ルートの検討や交通流動の精査、政策目標の検討等を予定しています。構想実現に向け、県、熊本市、周辺自治体及び経済界からなる協議会を8月に設立し、今後、国へ支援を要望するとともに県民の理解を深めるなど気運醸成に努めていく所存です。

本県の復旧・復興の現状と将来に向けた取組みについて書き綴りましたが、社会のダイナミックな動きを注視・予測しながら、きめ細かな対応が必要と考えており、様々な局面で高度な技術力や経験が重要となります。日本技術士会九州本部の皆様方には、引き続き御支援を賜りますようお願い申し上げます。



「ルック・技術士」へ

事務局次長 研修委員会副委員長 ふじしま よしひさ
藤島 義久
(建設、総合技術監理・福岡)



1. はじめに

今回、「提言」をとのお話をいただき、その切り口として「発信」、「交流」をキーワードに、技術士に期待される行動と姿勢を私の体験から述べてみたいと思います。

2. 「技術士」を発信してみよう～

私が技術士を取得し、入会したのは、今から22年前、当時は福岡県庁の職員でした。まだまだ現職での会員数は少なく20数名だったと思います。

その会合で先輩方のお話を伺うことで、技術士となったことの誇りを感じていたことを思い出します。名刺にもすぐに印刷しました。その効力は企画部署に所属していた時に早速に発揮されました。経済団体との名刺交換会で技術士という表記に、その方はプロジェクト推進に向けた県の本気度を感じたというのです。このことは技術士の存在をその名称によって一般の方に伝えた最初のインパクトだったと今でも心に強く残っています。

技術士は科学技術に関する高度な知識と応用能力が認められた技術者とされ、その行動原則として、自らの技術、顧客及び社会に対しての責任が求められています。先ほどの財界の方がどこまでこのような技術士への理解ができていたかは分かりませんが、少なくとも「技術士」という響きの効果は大きかったと考えます。私たちは技術士会の中において、内側から見ているとその価値に慣れてしまっているかもしれません。一步外に出て学会や協会等と交流し、技術士の立ち位置で大いに自らを発信されることをお勧めします。その際、「技術屋」として課題を明確にし、その解決策を具体的な事例や根拠を持って提案する、さらに、「技術士」らしく寛容な態度も大切だと思います。

3. 培った経験は次世代に伝えよう～

私は現在、建設コンサルタントに勤務しており、その業務の一つに学生さんへの業界の広報やリクルート活動があります。彼らの多くは進路選択を控えた就活時期の土木学科生です。土木と建築の違いに始まり、土木を市民工学と唱えるなど、還暦を数年前に過ぎた私にとって我が子よりも若い彼らに、

土木の魅力や役割を伝えることは、今後の人生に影響するかもしれないと考えるだけで、責任感と充実感が高まります。

土木に限らず、技術には現場に接しているという強みがあります。各々の分野で貴重な経験を持つ技術士にとって、現場に即した経験を語ることで次世代を育成していくことも交流であり、社会への責務であると考えます。

4. 横の交流も体感してみよう～

九州本部には昨年総務・企画委員会が設立され、私もその中で統括本部や地域本部等との連携に関する事項に関わっております。その一つの試みとして、CPDテーマの設定方法について各県支部の方々との意見交換を行っています。オンラインでの対応ですが、熱意あるご提案を多くいただき、改めて県支部活動の活性化が九州本部の発展に繋がると実感しております。このような横の交流から自らの活動を客観化でき、上述の外の世界と接するような感覚が得られ、さらには県支部の方が既に連携されている高専等との新たな交流の広がりが期待されます。テーマ設定に繋がるかは今後の進め方かもしれませんが、技術士が異業種・異分野を人のネットワークとして繋ぐ役割を担う上で、有意義と考えています。

5. むすびに

総合知という表現があります。一分野の専門性だけでなく、他領域への幅広い見識も必要とのことですが、実は総合知を得ることは、より専門性を深めることとなります。技術士に求められる姿勢も同様と考えます。専門性と総合力、技術士にはそのポテンシャルは十分にあります。加えて技術士会には、異分野との交流を可能とする恵まれた環境があります。日々の行動でできることから技術士への期待を高められたらと思います。

マレーシア元首相のマハティール氏が提唱した「ルック・イースト」政策のように総合力集団として「ルック・技術士」と呼ばれる日を夢見ています。

株式会社日建技術コンサルタント九州支社
(E-mail : pfujishima0720@yahoo.co.jp)

関門海峡散策記

倫理委員長 **西井 康浩**
(にしい やすひろ)
(建設、フェロー、CPD認定、博士(工学)・北九州)



私は今、北九州と下関に個人事務所と住居を構え、仕事で関門海峡を往来する生活をしています。自宅は汽笛が聞こえる唐戸地区にあります。この界限にはウォーターフロント施設が整備され、人気の水族館『海響館』や週末は観光市場となる『唐戸市場』があります。この海峡沿いには、私が建設コンサルタント時代に携わった下関市発注の港湾施設がいくつもあります。今回は、その中でも印象的なものをご紹介します。

1. 唐戸棧橋ボードウォーク

その昔、堂崎と呼ばれた唐戸の歴史は古く、朝鮮半島や中国大陸の玄関口として発展してきました。周辺には旧英国領事館をはじめとする歴史的建造物が散在しています。唐戸市場から海響館に続く臨海部一帯では、上部工に耐塩性の木材を貼った鋼管杭式の棧橋を設置しました。杭を打設するとき『太閤石(大阪城築城用で、急流で破棄された石材)』に当たって設計通りに打設できなかったため、上部工の梁の位置を変更せざるを得なかったこと、ボードウォークの木目を利用して、観光客の注意を遠方の関門橋に誘うよう工夫(写真-1)したことなど、思い出に残る苦勞した施設でした。夏の夕暮れ時、ウォーターフロント界限を散歩したついでに立ち寄るカフェテラス。そこで行き交う船や設計に携わった施設(写真-2)を愛でながら飲むビールは最高です。



写真-1 ボードウォーク



写真-2 最高のビール

2. あるかぼーと護岸

『あるかぼーと』とは、アルカディア(理想郷)とポート(港)の造語です。ここには水族館など華やかな施設がありますが、その傍らに私が設計した汐入池(写真-3)があります。これはケーソン式護岸の本体工上にボックスカルバートを載せ、さらに港

内側に石張りのポンドを設け、関門海峡の干満差を利用してポンド内に潮流を引き込み、安全に磯遊びができるようにしたものです。一種の海浜ピオトープです。この発想が失敗でした。何が起ったか？ 供用途中からゴミ、特に漂流木やプラスチックが流れ込み、一度入ったごみは流失せずに堆積(写真-4)し、環境や景観を損ねたのです。しかしこれが『怪我の功名』。最近、水族館がSDGsの取組として、この漂着ゴミの調査と水族生態系について、環境学習を始めました。まさに、災い転じて福となすです。



写真-3 汐入池



写真-4 堆積した海洋ゴミ

3. 壇ノ浦船溜まり

『壇ノ浦』と聞いて思い出すのは？ 平家滅亡の地、源平船合戦、耳なし芳一などでしょうか。この船溜まりを使う漁師は、幼子として亡くなられた安徳天皇を忍び、漁場では正座して漁をするそうです。この小型船溜まりは固い一枚岩の上に設けられました。ここには江戸時代から続く石積堤の係留を兼ねた防潮堤がありましたが劣化が激しく、直立消波ブロックとその背後にガイドローラー式の係留ポンツーンを備えた防波堤(写真-5)に改修し、水揚げ時の利便性を向上させました。この現場には、伝承の『不動の石』や歴史的船溜まりの景観保存(写真-6)の要望もあり、漁業関係者と行政との間に入って合意形成を図るという難題解決も経験しました。



写真-5 系船岸式防波堤



写真-6 江戸時代の石積堤

最後に私の持論ですが、自然がダイナミックに躍動する場所に人・物・情報が集まり、文化が育まれ、歴史が形成されるというものです。一日4回、激しく潮目が変わる関門海峡にはたくさんのお気に入りがあります。また機会があればご紹介します。

所属：西井技術士事務所
(E-mail: nishii-yasuhiro@seagreen.ocn.ne.jp)

Ⅱ

道徳・倫理におよぶ よぶ集團思考は

倫理委員・広報委員 **いさみ ひでただ**
勇 秀忠
(建設・熊本)



1. はじめに

令和4年度第1回倫理委員会において、日本技術士会名誉会員で登録技術者倫理研究会代表の橋本義平技術士と九州本部倫理委員会所属の下津義弘技術士の講演があった。私を感じたことを以下に述べたい。

2. 講演で感じた点と想い

橋本義平技術士：技術士に求められる倫理（Do no harm：他人に害になることはしない）。

専門職能集団であるべき技術士にはプロフッションの概念が希薄、特に企業内技術士では、雇用されている組織の一員であると意識する前に、自らを専門職技術者というプロフッションの一員であると認識する姿勢が希薄である。次に、技術士は知識や技術の面で職能の高さと同様に、公益に奉仕するという使命感と掟を守るという自律心が重要であり、技術士として正しく未来の姿が守られているかを問う独自の規範のなかにこそプロフェSSIONALとしての本質がある。講演は、印象深く、最後の「お天道様が見ているよ」が真髓と感じた。

下津義博技術士：データ改ざんへの対応「自身の環境計量証明事業での経験や最近のデータ改ざん事例とデータ改ざんは何故起こる・起こすのか」

特に、米国の社会心理学者アーヴィング・ジャニスが提唱した集團思考（groupthink）または集團浅慮に興味を抱いた。そこで、松井亮太氏（現山梨県立大学）の「集團思考とは何か」の解説を拝読した。一つに、福島第一原子力発電所事故の背景には、原子力関係者の集團思考があったと指摘されていた。

グループシンクとは、自分一人で考えれば正誤の判断がつくことが、グループ・集團で議論することで、かえって判断能力が欠如してしまい、過ちにつながるという考え方である。

そして、集團思考の防止策としていくつか挙げてあった。その中のいくつかを紹介する。①批判的評価者の設定②複数のサブグループの設置③外部意見の取り込み④悪魔の代弁者を設ける⑤計画策定グ

ループと計画評価グループの独立などが示してあった。

集團における意思決定においては「自己検閲」「マインドカード」がある。自己検閲とは、集團による同調圧力によって自己の意見を封鎖される前にあえて自分で発言を抑制してしまう。これは日本独特の「空気」「気配り」といった企業風土や地域文化などにも影響されると思われる。また、マインドカードは心理的防衛ともいい、集團的意思決定がある程度明確になっている状況下で、当該集團の意思と異なる意見を自組織に近づけないようにする現象である。こうなると組織自体が偏った思想・価値観の人間ばかりが増えてきて、いわゆる「茹でガエル」状態であり、自分たちが正しいといったことに陥るのであろう。

技術士倫理綱領における一丁目一番地を考えると公衆の利益の優先を第一義としなければならない。上記の2つの本質は同調圧力であり、集團における脅迫観念みたいな症状なのだ。

安部孝太郎氏の日本の集團浅慮の研究・要約版に人間は、非常に馬鹿げた不合理ないし非倫理的行為に走る可能性を秘めていると述べていた。下津氏の資料（東京未来大学角山剛教授引用）から、カナダ出身の心理学者アルバート・バンディーラは人間が常に道徳基準に従った行動をとるとは限らない。道徳的な自己規制を自ら外してしまうことがある。普段は良識的な人々がさしたる葛藤やストレスを感じなくなる逸脱行為を起こすのであり、道徳的束縛からの解放メカニズムとして、少し紹介すれば、①倫理的正当化：悪い行為を倫理的に認められる物だとする②婉曲的ラベリング：悪い行為をそう取らない言葉で表す③責任の転嫁：他人や社会に責任を押し付ける④責任の拡散：不正の責任が一人あるいは一カ所ではなく、複数にあるとするなどである。

3. おわりに

少し、大袈裟だが集團思考に陥るメカニズムのさらなる解明や防止策に対して、科学的分析も必要だろうし、「みんながやっているからよいのだ」と言った日本の状況倫理に対して道徳・倫理を探求し、本音で話せる組織風土の構築とコミュニケーションのあり様を研究しなければならないと思った。

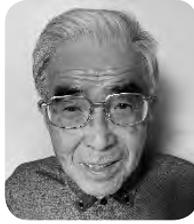
所属：株式会社興和測量設計
(E-mail：isami-h@kowa-kk.co.jp)

熟練技術士の声

私と技術士のかかわり

くろき ひでひろ
黒木 英浩

(経営工学、総合技術監理・宮崎)



1931年生まれの私が今も健康に過ごすことができてるのは技術士の肩書きをもっているおかげだと考えている。以前、宮崎市内の南九州大学の非常勤講師を委嘱され、後期1コマだけの授業を担当していたことがある。この大学にいたT先生（技術士・農芸化学）の紹介で始めた。経営工学に関連する講義が、学生達にどれだけ理解されているか疑問ではあるが私にとっては非常に勉強になっていた。昔、「工業所有権」と言っていた用語が「産業財産権」に代わるとか、実用新案権の存続期間が6年から10年に延長されるなど時代とともに変化している。学生達には時代にあった正しい知識を紹介しなければならない。そのための勉強が私の心身の健康に役立っていた。

私が大学を卒業した1954年は朝鮮動乱が終結し、就職難の年だった。幸い金属チタンの製造を始めたばかりの会社に就職できた。日本で初めて工業的な金属チタン製造に成功した企業だったので、量産設備の開発や操業管理に、若い学卒技術員がそれぞれの工程を任せられ、毎日新しい仕事に取り組んでいた。私は最終工程を担当し、製品の品質管理が主要な仕事だった。品質クレームをきっかけに統計的品質管理を導入することになり、私は部長と二人で日本科学技術連盟の品質管理ベーシックコースを受講した。その時の主要な講師は、東京大学助教授だった「石川 馨」、「森口繁一」、「朝香鉄一」の三氏と東京工大教授の「氷野滋」氏で非常に質の高い講義と演習を受けたことを覚えている。

1957年に会社はデミング賞に立候補することになり、私が事務を担当した。日本科学技術連盟を通じて石川先生や朝香先生を会社に招聘して指導を受けながら、全社的な品質管理体制を整え審査を受けた。ところが結果待ちの段階で、主要な輸出先の米国で軍事予算の変更という不測の事態が生じ、金属チタンの出荷が激減することとなり、希望退職者を募集する状況にまでに陥ってしまった。急遽デミング賞の申請は取り下げになってしまったことは、今

でも悔しい思いが残っている。

その後、米国向けの輸出は徐々に復活したが、業績不振が続き1962年に2回目の人員整理が行われた。このとき、私も同じ資本系列の鋼管製造会社に転職した。このころ高度成長期で、設備の増設や自動車用の各種鋼管の開発を担当した。また高炉メーカーの技術者達と鋼管部会での共同研究会に参加し、仕事にやりがいを感じていた。一方でチタン製造会社での実績を整理して評価してもらうために「技術士」という資格に挑戦することにした。その試験は、酷暑の時期に冷房のない教室で、タオルで流れる汗を拭き拭き答案を書いたことを思い出す。その後の口頭試験も無事通過し、たった一度の受験で「技術士合格証書」を手にすることができた。合格したのは昭和41年（1966年）11月で、技術部門は「生産管理」となっていた。

その後、昭和42年2月に当時の科学技術庁に第4816号として登録した。その時の登録証は毛筆縦書で大変貫禄のあるものだったが、手元に残せなかったのが非常に残念である。「生産管理部門」は現在「経営工学部門」と読み替えられている。

その後、一度は品質管理の専門コンサルタントとして独立を考えたものの、結局60歳定年までサラリーマン生活を全うした。1991年に定年を迎えた後、首都圏を離れて、実母の待つ宮崎に戻った。

それから宮崎県中小企業振興公社のアドバイザーとして6年間、さらに宮崎県産業財団のコーディネーターとして3年間仕事をした。技術士資格とともに、定年の3年前に取得した「中小企業診断士」の資格が役に立ったとしみじみと感じる。

70歳を過ぎた2002年には登録証に「総合技術監理部門」を追加できた。建設部門以外では、この「総監」を受験する方が少ないように思われるが、技術のプロとして自信を持つためにも是非とも積極的に挑戦してほしいと思う。

宮崎県においても、技術士のほとんどが建設部門であり、機械などの部門の技術士は少ない状況である。しかし、そのような建設部門以外の技術士受験の勉強会に参加し、刺激を受けている。若い技術者の中に入って、議論に加わることができるのも技術士冥利に尽きると思う。

所属：黒木技術士事務所
(E-mail : kuro6631@ybb.ne.jp)

若手技術士の声

ゼロからの技術士 第二次試験への挑戦

やすなが としひろ
安永 敏浩
(建設・鹿児島)



1. はじめに

私は、現在、鹿児島県の建設コンサルタント会社に勤務しており、主に道路関係の設計業務等に携わっています。

しかし、もともとの専門はIT分野で、高校・専門学校ともに情報を学んでおり、専門学校を卒業してからは神奈川県ソフトウェア会社でプログラマーとして仕事をしていました。

当時はITが普及し始めていた頃で、忙しいながらもプログラマーとしての生活は充実していました。

そのような中、情報だけの世界からは自分の仕事が世の中でどのように役に立っているのかを知ることが難しいと考えるようになりました。また、IT以外の世界に立った時、自分の技術がどれくらい通用するのか挑戦したいとも考えていました。

そこで、専門学校時代にCADを勉強していたことがきっかけで、現在の会社にご縁があり、建設技術者としての人生が始まりました。

当時の建設業界は、IT化への転換期と言うこともあり、入社してからは土木技術の仕事・習得の傍らで、CADや文書作成ソフトなどIT関連の指導・問題解決に携わっていました。

2. 技術士受験に至った経緯

建設業界に就業してから月日が経過し、ある程度自力で設計業務がこなせるようになった頃、自分の技術力を外部に向けて示す客観的な証明が欲しいと考えるようになりました。

また、尊敬していた会社の先輩が技術士を取得したことも影響して、私もいつかは技術士になりたいと強く思うようになりました。

そこで、一念発起をして、恐れ多くも建設関係は専門外だった私が、建設コンサル系の最高峰資格である技術士になるため、ゼロからの挑戦を始めたという訳です。

まず、千里の道も一歩からということで、技術士第一次試験から始まり、一級土木施工管理技士、RCCM試験の受験を通じ、建設関係の試験に慣れることから始めました。これらの試験に合格すること

で、技術士第二次試験にむけて自分でも頑張れるという自信をつけることが出来ました。

それと並行して、技術士第二次試験の過去問題の解答論文を作成し、社内の技術士の先輩方に添削指導をして頂き論文対策をしました。

最初の内、まともに論文など書いたことが無い私は、論文の作成に時間がかかり、1枚の論文を書くのにさえ1時間以上かかっていました。

これが非常に苦痛で、何度も諦めようかと思いましたが、もう少し頑張れば何か見えるかもしれないと論文作成を無心になって続けました。

そうして、論文作成の回数を重ねていくにつれ、論文の精度的なものや筆記速度が上昇していき、1年くらい経過した頃には論文を作成することが楽しくなりました。

そして、5回の受験を経て筆記試験に合格した頃には、書いた論文の厚さがA4用紙7cmほどになっていました。

その後、口頭試験に臨むにあたっては先輩技術士の方々に毎日のように模擬面接で指導をして頂きました。また、模擬面接にはビデオ会議システムも活用して遠隔の技術士の方も指導に加われるように工夫し、多くの方の指導を受けられるようにしました。

このように、万全の対策をして口頭試験に挑みましたが、口頭試験では緊張し上手く話せなかったような記憶があります。しかし、結果は口頭試験に無事合格しており、晴れて技術士になることが出来ました。

技術士第二次試験を受験して感じたことは、受験生本人の努力だけではなく、論文を添削して頂く技術士の存在が非常に重要だということです。その点で、私の技術士受験の指導を行ってくれた先輩方にはとても感謝しています。

3. おわりに

激甚化・頻発化する水災害や切迫する大規模震災への対応、社会構造の変化による様々な問題の解消など技術士が解決すべき多くの課題が山積しています。技術士としてそれに対応していくために、これまで以上の自己研鑽が必要と考えています。これからも、先輩方の指導の下、自己の技術力をより一層強化していきたいと考えます。

また、技術士となった今、次世代の技術者・技能者の育成にも尽力していきたいと考えています。

所属：株式会社新日本技術コンサルタント
(E-mail: yasunaga@shin-nihon.net)

創業20周年を迎えて ～零細企業の「ウリ」～

なかぞの けんいち
中園 健一
(建設・福岡)



前職の同僚有志で2002年に会社を創業し、奇しくも本原稿の執筆依頼を受けた8月に満20周年を迎えた。振り返るとまも無い、あっという間の20年ではあったが、ちょうどよい機会を得たと思い、創業からの足跡を思い起こすとともに、技術系零細コンサルタント会社の経営ポイントを考えてみた。

1. 会社概要

社名「エーシーソーイング」がA（建築：architecture）とC（土木：civil engineering）に由来するとおり、弊社は技術士（建設）2名、1級建築士1名を中心に立ち上げた総合建設コンサルタントである。業界の方はご存じと思うが、建設業界において土木と建築はあらゆる面で、いわゆる「垣根」が存在し、弊社のような零細コンサルタントで土木・建築の双方を扱うのは比較的珍しい業態といえる。

また、創業当初より完全独立採算制を採用し、それぞれの技術者が営業から実務まで担当するため、会社「組織」というよりは、技術者「集団」と呼ぶ方がしっくりくる点も、他社とは異なる点である。

2. 20年を振り返って

創業時、私自身まだ30代半ば、ちょうど技術士試験に合格し、技術者としての将来への期待と、創業にあたって前職の負債も抱えた上での会社設立であったため、多少の不安も入り混じった船出であった。

以来20年、それなりの波風はあったものの、比較的堅調に会社を維持し続けている。

国税庁によると、会社が10年続く確率は6.3%、20年続く確率は0.4%とされる。現代はビジネスサイクルも昔に比べて格段に速く、日常的に合併や売却も行われるため、長く存続させること自体にかつてほどの意義はないかも知れないが、自社に対する顧客の満足がどこにあり、それをどのように伸ばして今後継続していくかを考えることは大切である。

3. 零細企業の「ウリ」

弊社がこれまで20年、堅調に業績を維持し続け、創業当初からの固定客に加えて、毎年少しづつ新規の顧客を獲得し続けている一番の要因は、専門性の

異なる技術者チームであることによる「間口の広さ」と、「フットワークの軽さ」にあると考えている。

このうち、フットワークの軽さとは意思決定の速さであり、零細企業の一番の「ウリ」である。

これは、各社員の知識や経験などに全てを依存し、無責任に行動することを指すものではなく、OODAループに基づく企業戦略の基本である。

OODA（ウーダ）ループとは、従来のPDCAと比較される意思決定の考え方で、①Observe（観察）、②Orient（情勢判断）、③Decide（意思決定）、④Action（実行）、⑤Loop（見直し・繰り返し）のサイクルを指し、「素早く何度も動く」ことを特徴とする。

OODAループでは、上記①観察から③決定までのプロセスが、技術者にインプットされた経験と情報によりほぼ同時に（直感的に）行われ、仮説をもとに行動し、見直しにより確信が持てるまで繰り返す。

つまり、中長期的な視点から、結果やプロセスに重きを置くPDCAに比べ、市場動向や顧客のニーズへ迅速に対応するフレームワークである。

特に建設は工場大量生産ではなく、ほぼ全ての仕事は自然相手の一品生産である。日々進歩する技術に対応する技術力は当然保持しつつ、良い意味で柔軟性のある「朝令暮改」の姿勢も、零細企業においては競合に打ち勝つ強みとしなければならない。

4. 今後の展望

もちろん、零細企業であるが所以のデメリットもあると感じている。例えば懸念されるのは、情報流入不足による技術の質の停滞と、外部との交流不足による人脈の硬直化などである。

こうした負の側面は、ビジョン（Vision）が定まっていないことによる向上心の不足が要因として考えられ、企業においても個人においても、人生や仕事上の夢や目的を明確にすることが必要であると考える。

個人的には建設業を通じて環境保全に関わりたいという思いがあり、これまで技術士以外にRLA（登録ランドスケープアーキテクト）や自然再生士、ビオトープ管理士などの資格を取得し、様々なフィールドに参加させてもらってきた。

今後もこうした活動を通じ、零細企業という身軽な立場で社会貢献を目指していきたいと考える所存である。

所属：有限会社エーシーソーイング
(E-mail: nakazono@ac-s.jp)

修習技術者の声

技術士試験 の勉強を通して

しおた ひろあき
塩田 博昭
(建設(修習)・佐賀)



私は建設コンサルタントの会社に勤務し、技術部に所属しております。

入社時は主に測量や調査業務を行っていましたが、現在では道路や河川の詳細設計などの業務を担当しております。

業務を取り進む中で他社の資格保有状況や報告書などを見ると、資格取得やスキルアップの必要性を感じ、RCCMや技術士など受験を始めました。

その後、技術士一次試験を合格し、独学で技術士二次試験の勉強を始めましたが、取り組み方や論文の作成方法がわからず、先に進めない状況でした。その際、技術士二次試験への取組をご指導いただけるNPO 法人技術交流フォーラム主催の「PE道場」の情報を知り、すぐに参加をいたしました。

PE道場では建設部門や農業土木部門など各分野の技術士の講師の方々方が在籍されており、対面で受験申込や解答論文の作成方法、試験時の心得など様々なことをご指導いただいております。さらに専門知識を増やすキーワード学習や論理的で伝わりやすい文章作成方法、知識を整理するためのマインドマップの活用などを教えていただきました。PE道場に参加したことで試験勉強のやり方にとどまらず、業務においての意識が変わりました。

以前、業務で作成した説明資料や報告書など文章がわかりにくく、提出した際に説明を求められることがありましたが、最近では「簡潔」「論理的」な文章を意識することで、そういった場面も少なくなったと感じます。

技術士二次試験では専門的知識だけではなく、コミュニケーション力などの技術者としての資質が求められております。今後も技術士試験など資格の勉強を通して、継続的に技術力の研鑽に励み、スキルアップや成果品の品質向上に努めていきたいと思えます。

所属：新九州測量設計株式会社
(E-mail: shiota@sk-saga.co.jp)

技術士試験合格 に向けて

はたなか ひろお
畑中 博雄
(建設(修習)・宮崎)



私は、宮崎県宮崎市内の測量設計会社に勤務しています。一般土木設計業務に携わっており、業界にはかれこれ20年以上在籍していることとなります。

修習技術者は社会に出てから3年程で取得したものの技術士二次試験とは全く縁がなく、実際に受験したのは令和に入ってからでした。コロナ禍の中、もうすぐ片手で足りないくらいの回数を受験したこととなります。そもそも、技術士という資格に自分の知見や技術は見合っていないと思い受験を避け続けていたのですが、この業界で頑張っていくにはやはり持っておくべき必要なものであります。今回、技術士試験合格に向けてという手記を執筆するにあたって私のような立場の方々を共有できるよう、思った(思っている)事を文章にしてみました。

「今年こそは」と、私にとって技術士に限らず資格試験合格を志す機会があるたびに結果発表後に口にするキーワードです。RCCMを取得する際も何度こ

の言葉を口にしたことか。そして今、現在進行形で口にしている言葉でもあります。付け焼き刃で対処ができない資格試験合格を目指し、日々の技術の蓄積や知見を得るための努力・啓発は日常業務と並行して行う事となりますが、私が試験対策として費やした時間は、日々の忙しさや怠惰の誘惑を言い訳に勉強に手がつかない事も多いため、合格者の方々と比較したら微々たるものではないかと思えます。それでも、その微々たる時間でも、努力、啓発してきたこれまでの時間はそこに存在し、決して無駄ではないと私は思っています。国土交通白書の内容を毎年キーワード抽出の為に読む行為によって身につく知識や記述式試験において年一回、全力で酷使する手指や腕の筋力増強は試験の回数を重ねるごとに最適化され徐々に書きたいことを書けるようになってきたような気がします。筋トレがすぐに成果が出ず継続する事で徐々に影響が目に見えてくる事象は、キーワードの蓄積や柔軟な文章校正及び説明能力及び手指や腕の筋力増強にも通ずるものがあると確信し「今年こそは？」吉報を得られるよう努力を重ね日々を過ごしたいと思えます。

所属：株式会社 白浜測量設計
(E-mail: hatanaka@shirahama-s.jp)

私のチャレンジ

「飲みにケーション」 の勧め

もろふじ もとのぶ
諸藤 元信

(建設、総合技術監理・長崎)



久しぶり投稿する機会を得ました。現在72歳になりますがそれまでの生き様を振り返り、何か一貫したのを見いだせれば幸いと思ってペンを進める事にします。

昭和48年に総合建設業の前田建設工業(株)に入社、技術研究所配属になり、土質及び基礎に関する全国の作業所からの不具合対応が主な業務でした。本社にいるときは海外のダム工事の見積り応援、本四連絡橋での魚の生態研究、ベントナイト廃泥水の連続処理装置の開発等に従事しました。学生時代の不勉強を挽回すべく会社で専門図書を読んで給料が頂けるなんて嬉しい限りでした。

昭和58年に北海道白老での高速道路工事、昭和60年福岡市でφ800水管橋下部工事、沖縄県石垣島でのフィルダム工事を経験し、九州支店TQC推進室で品質管理、毎月の改善活動発表会主催、デミング賞実施賞受審、ISO9000S、ISO14000S等の受審等に従事。

技術士資格は、「相手に教えるなら自分が勉強しそれ相応の取るべき資格を持っていないとダメだ!」という事で挑戦し、何とか平成2年に技術士建設部門を取得できました。

支店勤務の頃、40歳前後の技術士が集まった「YCE福岡」の立ち上げに参加し、例会が1回/2ヶ月開催され、毎回1~2名、15分/人で「ノウフウ」というコーナーで自己紹介をしていましたが、それぞれの内容が笑いを誘いながら個性豊かで、その後近くの居酒屋での雑談でさらにその人をよく知るようになりました。会社人間しか知らない小生にとって大変貴重な時間でした。23年経った現在でも年賀状のやり取りが継続しています。

平成11年から本社品質保証部で6年、主にISO関連を含めて本社・支店間のやり方・考え方のばらつきの解消と、若手職員教育の充実に傾注しました。

平成20年に長崎に戻って、公的研究所、工事会社、コンサルタントと平成30年まで勤務いたしました。その後「年金暮らし」で悠々自適の生活を4年間続けました。現在、本年5月から縁あって(有)吉川土木コンサルタントに勤めています。

継続は力なりと申しますが、長崎に戻ってから継続している行動の基本は、「小中高大の恩師、友人やお世話になった方々への連絡・コミュニケーションを続ける」ということでしょうか。出身高校の受験間際の3年生への「激励会」へはOB代表として13年間継続、大学土木同期会は卒業以来2年毎に全国各地で開催、大学軟庭部はオンライン飲み会に切り替えて毎月1回開催、またダム建設に従事した会社仲間とは石垣島でダムサイトに集合し、翌日はハーリーを見ながら地元との親交も深めています。

長崎に戻って14年になりますが、「向こう三軒両隣」の方々を知らないではいけないと思い、老人クラブにすぐに入会し、町内の現況を比較的早めに把握できました。現在72歳ですが「若手部長」の肩書で活動しています。これをベースに「青空パトロール隊員」、「小学校の通学路での子供見守隊員」になり微力ながら郷土・地域社会に体の続く限り貢献できればと思っています。

また、小さい時から木工職人でした祖父の手伝いをするうちに木工製作に興味を持つようになり、町内のあちこちで木材の廃材を頂いて椅子やテーブル、本棚等をDIYで製作し脳のボケ防止に役立たせております。町内では、薄い鉄製の街区表示板が剥がれたり、半分折れていたり、浮いていたりしたものをこのままでは町の雰囲気が見えなくなると思い市役所まちづくり部都市計画課に「まちづくり連絡協議会」の立場で連絡相談し、約100枚近く印刷してもらい、設置を市役所の職員と一緒に約2年間で完了させました。住民から「すっきりしたね、嬉しかね〜、気持ちよかばい!」と声をかけられます。

現在、職場にも若手職員が数名いますが、土質及び基礎に関する基本的原理原則を理解してもらい少しでも実務に応用できる様に指導出来ればと思っています。一般的にベテランは俯瞰的に個別の事象に内在する共通項(戦略)を見出しやすいが、若手は個別の事象に対する処し方(戦術)は優れています。その橋渡しが出来ればと思います。その為には、人に教える難しさ、大切さを自覚しながら自らに対する勉強研鑽が不可欠と考えています。

年賀状を顔と名前が一致する200名近くの方に出しておりますが貴重な財産です。私のチャレンジでは今までもこれからも、一貫して色々な方々と「飲みにケーション」をすることが人生において重要だと改めて考えています。

所属：有限会社吉川土木コンサルタント
(E-mail: morofuji@yoshikawa-d.co.jp)

地域の話題

大分

「宇宙で動き出した大分県」

たかやま ひさのぶ
高山 久信
(大分)



今、宇宙産業の世界市場規模は、40兆円を超え、2040年代には100兆円を超すと試算されている。

このような中、大分県は、「宇宙港を通じ、アジアにおける宇宙ビジネスの中核拠点となることで、日本を含むアジアの企業や人々に、地球を越えた新たなビジネスや暮らしの選択肢を提供する」というビジョンを掲げ、宇宙港の実現を図るとともに、宇宙港を核とした新たなエコシステム（経済循環）創出に向けた取り組みを進めている。その一つが、2021年12月にスタートしたシティプロモーション「宇宙ノオンセン県オオイタ」である。これは今年度も進化して展開中であり、大分県の取り組みと食や文化等の魅力を国内外に発信している。

<https://uchunooita.pref.oita.jp/>

大分県の宇宙ビジネスが注目されたのが2020年4月。大分県はアメリカのヴァージン・オービット社とのパートナーシップを締結し、大分空港から人工衛星が搭載されたロケットを垂直方向ではなく、空中から宇宙空間に発射する水平型宇宙港になることを発表した。同年9月に、内閣府（宇宙開発戦略推進事務局）と経済産業省が進めている「宇宙ビジネス創出推進自治体」に福岡県と共に選定され、地域における自立的な宇宙ビジネスの創出を加速させるため、衛星データ等を活用した宇宙ビジネスの創出を主体的・積極的に推進する自治体として位置づけられた。そして2021年2月には、大分県内企業を中心に、民間主体で宇宙港による街づくりや衛星データの利活用による事業創出の活動支援を目的に「一般社団法人おおいたスペースフューチャーセンター（OSFC）」が設立された。現在企業会員数は、県内外から企業会員56社、個人会員24名、学生会員33名、賛助会員25団体と想定を上回る会員規模になっている。またOSFCでは、2021年3月に宇宙ビジネス交流の場として「スペースベースQ（SBQ）」を開設し、毎月有識者を招いたフューチャーセッションを開催し、宇宙ビジネスの最新情報の提供と参加者によるワークショップを行い、新たなビジネス創出や宇宙食や街づくりワーキンググループによる活動を行っている。結果、2021年度に

は、内閣府の「みちびきを利用した実証事業」と「課題解決に向けた先進的な衛星リモートセンシングデータ利用モデル実証プロジェクト」に採択され実証実験に繋がり、現在は実装に向けた活動を進めている。

大分県による宇宙ビジネス機運醸成活動と民間主体による宇宙ビジネス創出拠点であるOSFCとの官民での新たなエコシステム創出体制が整い、情報交換をしながら宇宙関連ビジネス創出活動を展開中である。

さらに、2022年2月には、アメリカのシエラ・スペース社並びに兼松株式会社との間でパートナーシップを締結し、宇宙ステーションと地球の間で人や荷物のやりとりを行う宇宙往還機 Dream Chaser®のアジア拠点として大分空港を活用するための検討を進めることを発表した。

これまで宇宙・宇宙ビジネスに無縁であった大分県が民間と連携して宇宙を有効活用し、大分県のみならず、九州、日本そしてアジアの経済活性化に向け動きだしていると言える。全国では、宇宙関連ビジネスによる地域の経済活性化に取り組んでいる。しかしながら、その多くが自治体主導でビジネス創出活動が限定的になる場合がある。大分県の民間主体で柔軟な対応が可能なOSFCと大分県とが一体となった取り組みは、県外にも理解が進んでおり、県外からの問い合わせや訪問も増えている。今後、大分県では、次代を担う宇宙ビジネス人材の育成と宇宙ビジネスを産業として根付かせ、成長させる枠組みを確立することが鍵となる。

現在、経済産業省九州経済産業局では、オール九州として宇宙関連産業の活性化を目指している。九州には、九州大学発の宇宙ベンチャー「QPS研究所」が世界最高レベルの小型レーザー観測衛星システムの構築と衛星データの提供を目指している。また、鹿児島には国の打ち上げ施設があり、これに大分宇宙港が加わり、垂直・水平打ち上げ拠点が九州に整備される。さらに大分県を含め、佐賀県や熊本県など衛星データや宇宙技術を活用した新たな産業創出に取り組んでいる。これからの宇宙ビジネス振興に向けた取り組みを確実に進めるためには、官民連携による地域課題解決に向けた宇宙関連ビジネスの展開、宇宙ビジネス推進自治体である大分県と福岡県の連携、そして世界から注目されている大分県の宇宙港整備などのそれぞれの動きを連携させることが九州発の宇宙関連ビジネスの拡大につながるものと考えられる。

所属：一般社団法人おおいたスペースフューチャーセンター
(E-mail : info@osfc.or.jp)

地域の話題

宮 崎

おびかいどう 飢肥街道

かみやま たかひで
上山 孝英

(建設、総合技術監理・宮崎)



1. はじめに

宮崎県庁の土木吏員として20年ほど前、宮崎県の日南土木事務所に勤務していた。勤務地の日南市は明治維新までは伊東家の支配する飢肥藩に属し、藩政時代の遺構が今もあちこちに残っている。飢肥街道は日南市飢肥から宮崎市清武を通り、佐土原までの参勤交代にも使われた旧道（山仮屋道）を通称し、ルートの一部は現在の県道とも重なっている。当時記録した写真や記憶から飢肥街道に関していくつか記してみようと思う。なお、平部嶠南著「日向纂記」、山之城民平遺稿集「近世飢肥史稿」、現地の教育委員会説明文等を参考にさせて頂いた。

2. 藩政時代から明治時代の飢肥街道

飢肥藩には油津という良港があり、当初参勤交代は油津から海路で江戸を目指していた。しかし宝永年間に日向灘の内海沖で関船



写真-1

(御用船)が海難事故を起こし、その後は陸路で飢肥街道を日向市細島まで行き、待機させた関船に乗り換えたようである。山中の飢肥街道は写真-1のように徒歩でしか通れない難路であった。このような道を駕籠や荷物を担いで歩くのは大変な苦労であったろう。現在は通る人もないが道端の自然石に写真-2のような石仏が彫ってあったりして、ただの山道ではない雰囲気がある。



写真-2

写真-3は飢肥街道の一部であった県道に現存する距離標であるが、明治37年6月と刻印されており、残念ながら藩政時代のものではな



写真-3

かった。明治25年に県内初の道路トンネルである山仮屋隧道が完成し、明治27年頃には宮崎から飢肥間の県道が全線開通しているのこのころには客馬車などの交通機関も通行できるようになっていたと思われる。

3. 山仮屋関所跡

当時、藩内の関所は4ヶ所有り切手（通行手形？）がなければ通れなかった。参勤交代の一行は山仮屋関所で休憩し昼食をとったそうである。現在は県道から外れた山中に当時の基礎の石垣だけが残っている。(写真-4)



写真-4

4. 清武郷の僑墓

私の本籍地は宮崎市清武町で、藩政時代は飢肥藩の一部であった。清武郷は飢肥城から峠を隔てて飢肥街道から40km程行った所にあり、徒歩で片道1日がかりの遠隔地であった。清武郷士が毎年の城主の墓参りに飢肥まで出向かなくても済むよう、建てられた歴代藩主の巨大な僑墓（参り墓）が清武地頭所跡近くに並んでいる。



写真-5

5. 稲津掃部之助と妻雪江の悲話

稲津掃部助は20代で飢肥藩清武郷の地頭職を勤めた。妻雪江は15才ほどであったらしいが掃部助が関ヶ原の戦い当時、同土討ちの汚名を着せられ、本家より討伐の手が差し



写真-6

迫った時は真実を知って実家からの迎えの駕籠を飢肥街道の山仮屋で清武へ引き返させ、掃部助に付き添い最後の時を迎えた。稲津掃部之助と雪江の墓は現在の宮崎市清武町加納小学校の近くにある。(写真-6) 雪江のまだ幼いともいえる年齢に似合わぬ壮絶な覚悟に420年前の出来事とはいえ二人の冥福を祈るばかりである。

所属：西日本技術開発株式会社
(E-mail: t-kamiyama@wjec.co.jp)

志布志の「秋」

なかさこ てつろう
中迫 哲郎
 (建設・鹿児島)



〈一きれの 雲もない空の さびしさまさる
 山頭火〉

志布志駅の正面
 隅に句碑が建っ
 ている。「放浪の俳
 人・種田山頭火が
 志布志を訪れたの
 は、1930（昭和
 5）年の秋のこと



である。10月10日福島（宮崎県串間市）から徒歩志布志に入り、鹿児島屋に2泊滞在しながら町中を行乞し、12日志布志駅から都城へ向かっている」と案内看板にある。

鹿児島県の東部、宮崎県と境をなす志布志市の玄関口志布志駅は、1925（大正14）年に志布志線（西都城～志布志）、1935（昭和10）年には日南線（志布志～榎原）、翌1936（昭和11）年には古江線（後の大隅線 志布志～古江）と昭和の初めに3路線が次々と開通し、鉄道の拠点駅として町の発展の中心を担っていた。山頭火も、開通間もない志布志線を利用したことになる。

物流の中心・地域の足を担っていた鉄道も、赤字ローカル線や国鉄民営化の波には抗えず、1987（昭和62）年志布志線、大隅線の2線が廃止となり、今は日南線のみ運行、建設的な「終着駅は始発駅」の看板も終着駅のイメージを払拭するまでには至っていないような気がするの、私だけだろうか。

志布志のもう一つの玄関が志布志港だ。南九州における国内外との物流拠点、飼料供給基地として背後地域の産業を支えている重要港湾である。また、九州唯一国際バルク戦略港湾に指定され現在整備中である。大阪を結ぶフェリーや東京・阪神・沖縄航路など多くの人や貨物が海上輸送されている。12年連続木材輸出日本一もバルク港の勢いを感じる。周辺では、高規格道路の東九州自動車道、都城・志布志道路の整備に併せ沿線に倉庫の整備が進むなど志布志港の物流機能はますます向上している。「まちづくり」の中心は港に移動している。

志布志駅の活性化として2016（平成28）年から始まったイベントが「ぼっぽマルシェ」。発足当初は駅前広場の駐車場に地元の有志による数店舗の出店、昔の“回転焼”の復活には行列ができ、ノスタルジーを感じたものだ。また、アスファルト駐車場に直接の舞台広場を設けてのバンド演奏やダンス等の発表、イベントを盛り上げたいというボランティア活動が支えていた。私もその一人だった。

2021（令和3）年志布志駅隣に全天候型広場（ドーム付き芝生広場2000㎡）が整備され、現在は、この広場をぼっぽマルシェ会場として開催している。ぼっぽマルシェは、偶数月の第1日曜日に開催、毎回約30～40店舗の出店があり、来場者も約2000人程度、出店の内容も雑貨・小物・植物・飲食品と多彩なもので、いろんな年代の人が楽しめる内容となっている。ドームには舞台も整備され、快適な環境の中バンド演奏やダンス等の発表者も熱が入り毎回賑わっている。

旧駅跡地の一部には「志布志鉄道記念公園」が整備されており、蒸気機関車（C58112）やディーゼル機関車（キハ52 130）が保存・展示されている。今でも機関車は志布志機関区OBの「SL保存会」により現役そのまま美しい姿が維持されている。また、例年12月には、公園の周辺木々と一体となり電飾された機関車が今にも空に向かって飛び出しそうな幻想的なイルミネーションも一見の価値がある。



駅舎内には、志布志市総合観光案内所があり、無料で自転車が借りられる。山頭火が行乞した町中を、14箇所の句碑を巡りながら自転車で散歩するのもよい。

〈志布志へ一里の 秋の風ふく ころろしずかに
 山のおきふし 海は果てなく 島は一つ 山頭火〉。

10月23日には志布志の大空を彩る大花火大会が開催される。

〈秋の夜空 さわやかな風 みなとの大輪ゆらす〉。
 どうか皆様、志布志の「秋」を味わいに来てください。

所属：(公財)鹿児島県建設技術センター
 (E-mail : nakasako.t@kago-kengi.or.jp)

緒方川多連アーチ 石橋群

いけはた よしと
池畑 義人
(大分)



大分県豊後大野市の緒方川にかかる5つの石橋が2021年度に土木学会選奨土木遺産に『緒方川多連アーチ石橋群』という名称で認定されました。大分県では6つ目の選奨土木遺産認定で、2012年のキリズシのトンネル以来9年ぶりのことでした。本稿では緒方川多連アーチ石橋群について認定の経緯も含めて紹介します。

1. はじめに

豊後大野市緒方地区一帯は、平家物語にも出てくる緒方惟栄（これよし）に縁がある、大野川の上流域の奥豊後と呼ばれる場所です。この地域は9万年前に阿蘇大噴火による火砕流で覆い尽くされました。この火砕流台地に形成された深い河道を渡るために、加工が容易な火砕流由来の溶結凝灰岩を利用して石橋が造られました。このように、阿蘇火砕流と石橋群には深い関係があります。この他にも、豊後大野市には阿蘇火砕流にちなむ場所が数多くあることから市内全域が日本ジオパークに認定されています。

2. 個性的な5つの石橋

5つの橋は、東洋のナイアガラと称される原尻の滝を挟んで、上流から柚木寺原橋（橋長53m, 3連）、長瀬橋（橋長78m, 6連）、原尻橋（橋長73m, 5連）、緒方橋（橋長46m, 2連）、鳴滝橋（橋長50m, 5連）の順番で並んでいます。石橋群で最も古いのは1911年に竣工した緒方橋です。その後、1922年から6年かけて鳴滝橋、長瀬橋、原尻橋、柚木寺原橋の順に竣工します。

それぞれの橋は個性的で、柚木寺原橋は静かな佇まい、長瀬橋は5橋で最も長大、原尻橋は橋脚に建設に寄進した住民の名前が刻まれ、緒方橋は異なる径間のアーチの組み合わせ、鳴滝橋はモダンな印象です。これらの橋の近隣には近代的なコンクリート橋が整備されているものの歩行者の往来はあり、現在でも住民の生活に欠かすことのできないものとなっています。

3. 選奨土木遺産に認定された経緯

私は土木学会西部支部の土木遺産委員として、緒方川多連アーチ石橋群を選奨土木遺産に推薦しました。審査は西部支部からの推薦を経て、学会本部の

土木遺産委員会で行われました。当初は『緒方川石橋群』という名称で推薦したのですが、審査の過程で審査委員から『多連アーチの石橋が5橋も連続して現存しているものは珍しい』という評価をいただき、名称に『多連アーチ』という文言を加えたという経緯がありました。

4. 選奨土木遺産

今回認定を受けた選奨土木遺産は公益社団法人土木学会が2000年に制定したものです。その目的は社会および土木技術者へのアピール、まちづくりの活用、これらの観点から失われる恐れのある貴重な歴史的土木構造物の救済・保護の必要性のアピールです。選考の対象は原則として竣工後50年を経過したもので、公的機関や学協会による文化財などの指定を受けていないものとなっています。

5. おわりに

緒方川沿いの駐車スペースに緒方地区の観光案内の看板がありました。この看板には原尻の滝などの観光地と並んで5つの石橋が紹介されています。この看板を見て、地域の方が石橋を大事にしている様子が伝わってきました。今回の選奨土木遺産の認定が少子高齢化のすすむ緒方地区の賑わいを取り戻すために少しでも役に立てば嬉しい限りです。



柚木寺原橋



長瀬橋



原尻橋



緒方橋



鳴滝橋



石橋が紹介された看板

所属：日本文理大学
(E-mail: ikehata@nbu.ac.jp)

大淀川 観音瀬水路 ～都城島津家の遺産～

みつどめ やすひろ
満留 康裕

(建設、総合技術監理・宮崎)



一級河川大淀川中流区間の急流岩盤部約100mにおいて、寛政年間及び明治年間に水運のための河川航路として開削された観音瀬水路を紹介します。

(平成17年3月宮崎県史跡指定)



位置図

1. 大淀川の概要

大淀川は鹿児島県曾於市に源を發し、都城盆地において霧島山系から湧き出る豊富な地下水を水源とする数多くの支川を合わせつつ狭窄部に入り、その後岩瀬川、本庄川と合流後、宮崎平野を貫流しながら日向灘に注いでいる流域面積2,230km²、幹川流路延長107kmの河川です。

2. 大淀川の船運

陸上交通が発達していなかった時代、大淀川は流域で生産された木炭、櫓木、樟脳、和紙などを舟を使って河口まで運び、河口部に位置する赤江港（現宮崎市）から千石船と呼ばれる船に積み替えた後、江戸や大坂へ運ぶための重要な輸送路となっていました。一方、中流部にある急流区間である観音瀬において、上流と下流の水運はこの地の岩と滝によって遮断されていました。



下流左岸側から上流を望む

3. 観音瀬水路の開削

3.1 寛政時代

広大な都城盆地の水を一カ所に集めて漏斗口のように吐き出す場所が観音瀬であり、この区間の開削を決意したのが第22代都城島津家領主島津久倫（ひさとも）でした。久倫は家臣の藤崎五百治公寛（いおじきみひろ）に命じ、桂川（山梨県）吉野川（徳島県）木津川（京都府）等を調査させた後、都城から赤江までの川筋を他国のものと比較検討させ、通船可能との結論にいたりました。さらに肥後の急流球磨川に派遣して、川普請、川舟造船、楫取りの方法などを見聞させました。その後、寛政元年（1789年）12月に工事着工を命じ、寛政3年10月着工、同6年12月に約3年の工期を経て竣工しました。

3.2 明治時代

明治の開削工事は、県議会議決による地方税を充当したもので明治22年（1889年）から2ヶ年で完成し、その目的は、舟の引き上げ足場、水量調整や轆轤設置施設と思われる構造物等から見て、舟の引き上げに重点を置いた水路開削だと思われます。

4. その後の観音瀬

大正13年（1924年）に水力発電用の轟ダムが築造され、以後大雨・台風の度に上流部で浸水被害が発生する中、昭和29年（1954年）9月の台風12号による大水害を契機に激しい撤去運動が起き、昭和36年3月に撤去されました。



大正13年(1924)築造から昭和36年(1961)に撤去される逆発電用取水ダムの轟壩
壩長 87.9m
壩高 7.1m

5. おわりに

寛政の工事では、川中石を砕いて水深2尺程の水路を確保し、障害となる大石は両岸から轆轤で巻き取るなど、渇水期とは言え冬季水中の作業で困難を極めました。そのため、工事人足、杵人（きこり）、石工等に対しては、白米、銭、粥、焼酎等の支給があったようです。また、公寛は完成後舟を通す際には上下正装に両刀を差し早瀬の岩に正座し、舟が転覆したら切腹して責任を取る覚悟だったと言われていいます。現在では行きかう舟こそありませんが、河岸に立って観音瀬の滔々たる流れを見ると、当時の関係者の思いや苦勞がしのばれる気がします。

【参考、引用資料】

- ・国土交通省宮崎河川国道事務所ホームページ
- ・都城市役所ホームページ
- ・大淀川観音瀬水路開鑿について
都城史談会 塩水流忠夫氏 著

所属：株式会社都城技建コンサルタント
(E-mail : yasu-mitsudome@kyudai.jp)

それぞれの 『文武不岐』

まつだ けんし
松田 研志

(上下水、建設、総合技術監理・福岡)



『文武不岐』とは、学問と武道は別物ではなく、学問を究め何が正しいかを知ることは、武道の厳しい修練を積み人として向上することに通じる。その逆も同じことをあらわすという言葉です。

私が最初にこの言葉に出会ったのは、大学1年の春でした。入部した剣道部の部旗に『文武不岐』と記されていました。

学生時代は、自分なりに『文武不岐』を実践したつもりです。しかし、就職した後は、仕事の忙しさにかまけ剣道から遠ざかっていました。再び剣道を始めたのは、40歳代後半からで、20年以上のブランクがありました。

現在、松田技術士事務所では建設コンサルタントの仕事をしています。現在の私にとって、『文』は建設コンサルタントの仕事と様々な分野の読書であり、

『武』は剣道とマラソンです。毎朝1時間程度の軽い運動（ジョギング、剣道の素振り）をし、土日の午前中は、小学校の体育館で剣道をしています。最近コロナの影響でマラソン大会もオンラインマラソンでしたが、今年は久しぶりに「福岡マラソン」が開催される予定でフルマラソンに出場します。

今、一番実感することは、『文』と『武』の相乗効果です。剣道とマラソンが仕事や読書の充実に関わり、仕事や読書が剣道とマラソンの深化に関わっています。これが大事なことだろうと思います。

コロナ前は、剣道部OBが年1回集まって剣道をしていました。職業は、医者、教師、会社員等々です。皆、それぞれの立場で、それぞれの状況の中で、それぞれの文武不岐を実践してきたのだと思います。

私は今年69歳になりますが、人生100年の時代、当面は、75歳までのフルマラソン完走と85歳まで剣道の継続を目指そうと思っています。

ただ怪我や病気をすると継続できなくなりますので、健康管理と身体のケアは、今まで以上に必要だと痛感しています。

所属：松田技術士事務所
(E-mail : matsu1@docomonet.jp)

テニスは一生の趣味

しょう ひろき
鐘 廣喜

(建設、総合技術監理・北九州)



テニスとの出会いは40歳頃にある知り合いにテニススクールに誘われたことがきっかけでした。失敗したときの悔しさといふショットを打った時の喜びの繰り返しで徐々にテニスにはまっていきました。

しかし、ある程度打つようになって、それ以上に上達しようとする、とどんどん壁にぶち当たるような感じをつまらないなあとすら思うようになりました。

特に試合に出ると、普段練習でできた半分も出し切れない場合が多く、悔しい思いばかりでした。

しかし、しばらく我慢して続けていくと、時には「閃き」のようなものが出てきて、それまでできなかったショットができるようになり、テニスの喜びはまた徐々に戻ってきて、今日まであつという間に20年間も続けてきました。

テニスは私にとって四つの意味があります。一番目は体の鍛えです。自分にとっては単調なランニン

グよりもテニスでゲームした方が楽しいと思っています。私が参加しているクラブは私と同年代が年上の人が多く、特に定年から始めた人も少なくありません。その中で私より20歳も年上ながら、体の動きやショットの強さ等、私に劣りません。長年のテニス運動とは無縁ではないと考えます。二番目はストレス解消。どんなことがあってもコートに立つと、ボール追いに集中するため、すべて忘れられて、気持ちのリセットはしやすくなります。三番目はボケ防止。テニスは相手とのやりとりの中で、瞬間的な対応力が求められるため、頭の活性化に繋がるのではと勝手に思っています。四番目は汗を流した分だけ、ビールをよりおいしく飲ませてくれます。一回だけ、飲み物を忘れて、炎天下で3時間ほど一滴も飲まずに我慢してプレーした後、ビールを飲んでみたら、いままでのどの酒よりも美味しかったと記憶しています(真似厳禁)。四番目は友達ができやすくなります。

炎天下でも、雪が漂う中でもテニスをやっている人を見かけたら、とても不思議に思われるかもしれませんが、それだけテニスに魅力があるということだと思います。皆さんも試してみたら如何でしょうか。

所属：日進コンサルタント株式会社
(E-mail : syozgx1107@gmail.com)

伊能忠敬さんの 偉業に思うこと

ばば やすよし
馬場 康嘉
(建設・佐賀)



伊能忠敬さんは、江戸時代の中期に千葉県九十九里町で生まれた武士で、引退して50歳で江戸に出て、算術や測量術、天文学などを、自分より20歳も若い先生について学びました。

当時の平均寿命が40歳ぐらいといわれていますので、今でいうと80歳から学び始めたこととなります。

そして、55歳から測量を開始し、70歳過ぎまで全国をくまなく歩いて日本地図を作りました。

測量の方法は、三角測量ではなく、導線法という2点の距離と方角を連続させて求める方法だったようです。縄ひもは伸び縮みしやすいので、自分の歩幅と歩数を基準として距離を出したといわれています。

そのため、歩幅を一定にする訓練もしたようです。約70cmだそうです。歩いた総距離は地球一周を超える43,000kmといわれ、完成した「大日本沿海輿地全図」の精度の高さは、今も驚きの声があがっています。昭和初期まで日本地図として使われました。

出発前のエピソードでは、軒先の巢からツバメの子が落ちて死んだり、草鞋のひもが切れたり、家の酒桶が破裂したりと3つも凶兆が起きたようです。

昔は易や占い等を信じる人が多かったので、家族も出かけるのには反対したのだと思われます。

伊能忠敬さんから学ぶことは、意志の強さです。伝記によると、幼い頃は、からだが強かったようです。軟弱な体で全国を回るのはとても大変なことだったと思われます。さらに、隠居生活に入る頃に新しいことを学び始めた向上心や持続力にも敬服します。

人は失敗や挫折をすると環境のせいや人のせいにしがちです。自分に甘くなります。しかし、彼を見ていると、人生どこからでもやり直しができる、チャレンジできると勇気が湧いてきます。

やる気が起きないとき、昔やっていた趣味やスポーツなどにもう一度取り組んでみたり、新たに新しい事や関心事に挑戦してみてもどうでしょうか。

また、長く仕事を続けられように体の手入れや健康づくりに投資することも必要だと思います。

「自分には難しい。もうできない。」と制限をかけずに、何か少しでも自分にやれることはないか、お役に立てることはないかを問いながら、生涯現役を目指して、今日も一歩を踏み出したいと思います。

所属：株式会社九州構造設計
(E-mail: info@kyukoh.co.jp)

高齢者の心得 — 『一切皆苦』

おりた さだよし
折田 定良
(建設・長崎)



今年、令和4年もすでに後半を迎え、11月で65歳の前期高齢者に仲間入りすることとなります。最近の自覚としては、社会的には退職や年金といった文言が身近となり、身体的にはご多分に漏れず生活習慣病の持病を抱え物忘れが多くなるなど、一定の節目を迎えていることが実感できます。

特に今年の夏の猛暑は体に応え、熱中症で倒れたらなどと不安になったり、膝関節痛から正座が難しくなったり、シャツや靴下を履いたり脱いだりといった動作が思い通りにいかなかったり、この原稿を書いておりましたが、テーマの抽出や文章の推敲が思うようにまとまらない有様です。

一方、3人に1人が高齢者という高齢者社会を迎えたわが国では、まだまだ、私の年齢では修行半ばであり、何一つ成し遂げたという自覚などありません。

技術士会の長崎県支部会員や趣味のテニスサーク

ル、ゴルフ仲間のうちでは、70歳～80歳の先輩方がご健在で、自分など半人前の新人扱いです。

必然的に、定例の会議室の手配、テニスコートの抽選申込み、ゴルフ場のラウンド予約などの役が命じられることとなり、先輩方のお役に立つことができればと喜んでお引き受けするようにしています。

昨今の新聞やテレビの報道で、新型コロナや、ウクライナの戦争に伴うエネルギー不足や食糧不足など、個人的に解決できないことで将来的な不安を感じる事柄が多くなってきています。

仏教の教えでは、取り巻くすべての人の心や己の心身を含め、万事に自分の意のままになることは何一つないという意味の「一切皆苦(いっさいかいく)」という教えを、先日習うことができました。

自分にできることなどたかが知れていると自覚しますと、将来的な不安や恐れも多少薄れ、心配ばかりしていても仕方がないとすこし気楽になる気がします。

40才台から50才台は“我慢と無理はしない”をモットーに、焦らずマイペースで過ごすよう努めて参りました。高齢者となって今後は、難しいとは思いますが、できるだけ“私欲を捨て、些細なことで怒ることがないよう”、ご縁を大切に過ごすことができればと願っております。

(E-mail: s.orita@so-net.ne.jp)

iTECS技術全国 交流会発表

いさみ ひでただ
勇 秀忠
(建設・熊本)



昨年（石川県金沢市開催）同様、今回は北海道札幌市で2022年度iTECS技術交流会がロイトン札幌で開催された。今回「iTECS法の適用による橋梁補修工事の品質管理の高度化への取り組み」（一般講演）として第2部のiTECS法の活用・応用事例で発表した。今回もコロナ禍ではあったが会場参加者50名、リモート参加者約300名の多くの参加者があった。

そもそもiTECS技術は、コンクリート表面を鋼球等で打撃し、発生した弾性波を測定することにより、コンクリートの内部の状況を非破壊で試験する技術である。これまで、国土交通省新設橋梁工事での強度試験に採用されている。また、多くの既設構造物の調査に適用できるなど、コンクリート構造物の品質管理や維持管理に適用されている。熊本県でも新設の橋梁上部工・下部工（橋長に関係なく）の強度

測定に採用され、多くの県内自治体でも実施されている状況だ。私が講演した内容は、本年7月号のコンクリートジャーナルに掲載が決定した前掲の内容を紹介させていただいた。技術士だより・九州第132号のお知らせでも紹介している。

補修業者による補修工事の施工（以下、業者施工という）の断面修復工事に対しては、品質照査の管理基準が詳細に定まっていないことなどから、主に、目視による外観検査のみを実施している。玉名市は、補修工事を実施した後の再劣化事例が多いことを懸念し、業者施工による断面修復工事の品質照査に、直営施工で採用している第三者機関による衝撃弾性波法（以下、提案照査法という）を採用し、実際のRC床版に対して、提案照査法を実施した後にさらにコア採取を実施して、衝撃弾性波法の妥当性を検証した。その結果から、施工不良の状況が明らかになった。

尚、橋梁の定期点検などで一般に広く利用されている点検ハンマによる打音法についても、その適用限界を検証した。打音法では検知できない深さの位置に空隙等の不連続面が存在していることも明らかにした。

株式会社興和測量設計
(E-mail : isami-h@kowa-kk.co.jp)

皆さん、趣味は お持ちですか？

ふじわら ひでし
藤原 秀志
(建設、農業、総合技術監理・宮崎)



皆さん、「趣味は何ですか？」と聞かれたときすぐに返答ができますか。私は、昨年10月に約42年間勤務した会社を退職してすぐに、仕事以外で熱中できることや、日々の生活を楽しめるこれといった趣味がないことに気づきました。ちょっと焦りながらあれこれ考えていたところ、趣味の域には達してないものの、たま〜に大型バイクでツーリングするのが好きだということ思い出しましたので、今回「趣味」ということで書かせていただきます。

私のバイクは、ハーレーダビッドソンの「ヘリテージ ソフトテイル クラシック」という排気量が1580CCのバイクです。重量は約340Kgありますので、信号等で停車する時を含め低速時に不安定になり慣れるまで苦労



しました。通常の走行は極めて安定し快適です。

ハーレーオーナーの一つの楽しみが、クラッチレバーやギアペダル、ステップなどのパーツを自分が気に入ったものに交換することです。これが結構高くついて馬鹿になりません（バイクに興味のない人からするとただの無駄使い）。また、ろくに乗りもしないのに車体をせっせと磨くことです。乗るためじゃなくて磨くために買ったのではないかと思われる方もいらっしゃると思います。私もある友人に「このバイクは新車よりきれいやね」と皮肉のような誉め言葉をいただいたことがあります。

それから皆さん、気を付けていただきたいことがあります。それは、ハーレーオーナーにとって自分のバイクは“恋人”であるということです。したがって、停めているハーレーを「触ったり」、まかり間違っても「またがったり」は決してしないでください。眺めるだけにしてください。

最後に、ハーレーが走っているところを見かけかっこ良いと思ったことがあるかもしれませんが、かっこ良いのはバイクだけで乗ってる人の大半が“じいじ”であることをお忘れなく。

所属：株式会社西田技術開発コンサルタント
(E-mail : fujiwara@nsd-c.co.jp)

ミニ特集 『趣味・特技、社会貢献、心に残る言葉・出会いなど』

幸齢者を目指して

おおかわばた たかし
大川畑 隆
(建設・鹿児島)



嘘のようなことが今年4月1日夜に起こりました。そのため、生まれて初めて全身麻酔での手術、入院を体験することになりました。それは、テニススクールでの出来事でした。あと5分もすれば終わろうかという時でした。左足を踏ん張った時に、誰か後ろから私の踵めがけて球を投げつけ、その瞬間周囲からポーンと音もしたので、誰がやったのかと思った途端、急に足に力が入らなくなり、座り込んでしまいました。

翌日、病院に行くとアキレス腱断裂の診断、4月13日に直視下縫合術の実施となりました。私が小学3年の時、手術入院はなかったですが、馬乗り遊びの最中、自軍の馬が崩れてしまい、足が絡んで左足脛骨折以来の大怪我でした。

中学からソフトテニスをしていましたが、40歳になってからは硬式に転向し、最初はテニススクール

に通い、次第に小遣いが減らされる中、テニススクールに入り続けていました。法的に高齢者と呼ばれる年齢になりましたが、もう少しうまくやりたいと思い、テニススクールにお世話になり始めて半年たった時の出来事でした。なにせ初めてのことで不安でしたが、手術は3時間ほどで終わり、目が覚めた時はベッドに載せられ病室に戻る途中でした。自分の体を見るといつの間にか尿道留置カテーテルが装着されオムツを履いていました。これは介護状態ではないかと思いましたが、翌日には外れました。

入院中は毎日リハビリを受け、装具を付け松葉杖での1/2負荷歩行が可能になった5月5日に退院できました。3週間程度の入院でしたが、多くの方の支援を受け退院となりました。特に、理学療法士の工夫を凝らした献身的なりハビリと会話には元気をもらいました。退院後もリハビリは続いており、スポーツへの復帰は11~12月の予定だそうです。

人生百年とは言いますが、「高齢者」の言葉の響きは寂しいので、ここまで頑張った、これからも希望を持てるという意味を含めてテニスを楽しみ、探求心持った「幸齢者」(精神科医の和田秀樹氏の意見を参考に)を目指したいと思います。

所属：株式会社南日本技術コンサルタンツ
(E-mail: ookawabata@nantec.co.jp)



九州本部青年技術士交流委員会 メンバー募集案内

九州本部青年技術士交流委員会は、概ね45歳以下（やる気があれば何歳でもOK！）のメンバーで構成され、家庭・職場に次ぐ第3の交流の場です。様々な部門の技術士の相互交流を通して自己啓発・社会貢献・人脈形成など様々な経験・成長を実感できるはず！

合い言葉は「できる人が、できる時に、できることを」とし、楽しみながら様々な活動をしています。あなたも一緒に活動してみませんか？

活動の三本柱

研鑽活動

- ・CPD
- ・見学会
- ・夏休み自由研究
- ・公開講演会
- ・研鑽会 など

普及活動

- ・技術士制度説明講義
- ・JABEE認定課程支援活動(大学・高専での講義)
- ・女性技術者・女子学生懇談会 など

交流活動

- ・合格祝賀会
- ・納涼会
- ・忘年会
- ・ゴルフ大会 など

応募の詳細はこちらから！



QRコード

問い合わせ先: kyusyu.seinen.pe@gmail.com 担当: 大川

応募フォームURL: <https://bit.ly/3fxXsnv>

故小出剛先生追悼文

日本技術士会フェロー会員 ^{いとう}伊藤 ^{せいいち}整一
(建設、総合技術監理・福岡)



平成20年8月農業農村工
学会功労賞受賞祝賀会にて、
往時の故小出先生

去る5月12日巨星墜つ。故小出剛先生は突然に89歳の天寿を全うし異界へ旅立たれました。ここに先生のご薫陶を拝受した者の一人として、そのご指導に深甚の感謝を申し上げるとともにご逝去を悼み、衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。

故小出先生は、昭和33年九州大学農学部農業工学科を卒業と同時に農用地整備公団へ奉職され、本社部長・支社長等要職を歴任され、平成3年退官されました。その後、後藤組取締役、更に平成15年(株)久栄総合コンサルタント顧問として活躍されました。先生の産学官界でのご活躍は幅広く、農水省及びJICA等における専門研修の講師、技術基準作成委員、九大、大阪府立大学、高知大学、宮崎大学における農村整備、建設機械施工、JABEEに関する講師、農業土木学会賞受賞(S46)、JABEE審査員登録、M大学審査実施(H17)など。また、福岡地方裁判所専門委員にも就任され、著作には「機械施工」、「農用地の開発・整備一設計・施工」、「農地保全」、「農業用道路の設計事例」などがあります。

先生は、昭和42年に技術士に登録、退官後に日本技術士会に入会された後、当会九州支部(現九州本部)の前身である九州技術士センター会長を始めとして、副支部(本部)長、九州支部第5部会長、更には平成13年から2期4年、日本技術士会理事としてご活躍され理事としての功績は誠に顕著でありました。理事退任後は同会評議員として活躍され、

その間会員年会費の値下げ、会員の増強、技術士法を実質的に職業法へ近づけるための環境改善、技術士会組織の活性化など鋭意努力をなさいました。その成果は現在徐々に表れつつあります。

平成21年12月には、技術士会の登録団体として九州本部の会員による活動グループとして、「九州地域自治体等業務支援技術士センター(略称TESPEC)」を立ち上げられ、所属技術士23名により、宮崎県、熊本県、長崎県等の監査業務の指導及び審査に参加しました。その後九州本部の参与として九州本部組織の活性化に尽力されました。

先生のご性格は温厚かつ闊達でいらっしゃいまして、交友関係も誠に広く、日本技術士会以外の方々のお名前をよくご存知でした。種々の講演にも参加されましたが、その際講師の先生方の所へ行って自己紹介及び日本技術士会の簡単な紹介を必ずされました。それが先生の顔の広さにも関係していると思われませんが、筆者が委員長をしていた九州本部研修委員会が主催するCPDや九州本部主催の研修会の際にお願いする講師の先生方を産学官界から推薦していただいたことは、大いに助かったことを思い出します。少し小柄なお体で日頃から酒の席にもよく参加され、老若を問わずお付き合いをいただきましたが、酒に崩れたお姿は見かけたことがありません。

家庭は、洋子夫人との間に二人のお嬢様がおりますが、現在はお一人は医師と結婚され、大分市に在住、お妹様は、篠栗町にご家庭をお持ちです。

茲に改めて偉大な先生を失い、ただただ惜別の情に堪えないところですが、改めて先生のご功績・ご厚情に感謝申し上げますとともに改めてご冥福をお祈り申し上げます。安らかにお休みください。合掌

所属：株式会社ネオグローブ
(E-mail: s41itoh@tiara.ocn.ne.jp)

故畠中新二郎先生のご逝去を悼んで

旧九州技術士受験研究会幹事 ^{こが} ^{てるひさ} 古賀 照久
(環境、建設、農業、総合技術監理・佐賀)

技術士情報工学部門の技術者であり、若い技術者の指導者であった畠中新二郎先生が、令和4年6月にご逝去されました。庭木剪定中の事故であったとのこと。

畠中先生は、平成10年代中頃には長野義次先生、伊藤整一先生とともに修習技術者等支援研究会で技術士受験の指導をされておりました。平成20年代に入ると、長野先生、伊藤先生が九州本部の活動に専念されることとなったため、小西徹先生、平塚誠一郎先生とともに自らが研究会代表及び事務局長として研究会活動に尽力されていました。そのころ、私は畠中先生から声をかけられ、先輩先生方のお手伝いをするようになりました。九大病院キャンパスでの技術講演会の休憩時間に、中庭で優しく、丁寧に声をかけられた時のことが忘れられません。

当時は、須恵町にあるご自宅から博多駅前にあった旧技術士会事務所に何度も足を運ばれ、研究会の講義資料をほとんど一人で準備されていました。講義の時には司会進行、講師の方への謝金・交通費の支払い等々まで、実に丁寧に Roweられておりました。時には、講師の先生方をねぎらうため、細やかな食事会を準備されたこともありました。しかし、次第に体力的負担が大きくなったとのことで、平成28年度に研究会事務局長を平塚誠一郎先生に譲られました(写真参照)。そして自らは、九州本部研修委員会の活動にとどめられるようになりました。ご自宅では、飯塚にあった畑まで出向いてジャガイモなどを作られていたようです。

最近では、九州技術士受験研究会事務局立て直しのため、西尾行生先生はじめ九州本部への協力要請に尽力していただいていた。その結果、最後の研究会代表である赤石維衆先生が九州本部地域産業支援委員会においてオンラインで協力要請のスピーチをすることができました。

令和元年8月に、畠中先生とともに研究会活動の

2本柱の一つであった小西徹先生が、家周りの清掃中の事故で逝去されました。そして、もう一つの柱であった畠中先生が小西先生と同じような事故で逝去され、あまりの衝撃で今の気持ちを表すにふさわしい言葉が見つかりません。

先生の柔らかいお人柄にひかれて研究会活動に参加された講師・事務局の先生方、また、研究会の指導を受け技術士として巣立って行かれた方は50人を下りません。九州の技術士会に多大な貢献をされました。きっと、今後も遠くより私たちを暖かく見守り、導いてくださるものと思います。

長い間ご指導有難うございました。



平成29年度九州技術士受験研究会講師懇談会にて感謝状と記念品贈呈

中央・統括本部情勢

理事会

理事会報告

副会長・理事 たぬま かずお
田沼 和夫
(フェロー・建設、総合技術監理・福岡)
(CPD認定)



2022年度第2回理事会が2022年7月13日(水) 14:00から17:00まで開催されました。審議事項は5件で報告事項は11件でした。

審議事項

1. 防災支援対外活動ワーキンググループの設置について
2. 防災支援対外活動ワーキンググループ員の委嘱について
3. 日本機械学会との行事の共催について
4. 委員会委員等の異動について
5. 会員の入会等について

報告事項

1. 第64回定時総会開催結果報告について
2. 新型コロナウイルスの対応方針について

3. IEAのGA/PC第4版への対応とIEAレビューに向けた推進体制等について
4. 第1回IEA・GA/PC改定等対応調整会議について
5. 令和4年度技術士第二次試験受験申込状況について
6. 会員による活動グループの登録審査結果について
7. 緩やかな連携(その他の設立連絡)について
8. CPD広報タスクフォース検討状況報告について
9. 技術士CPD実績管理登録状況
10. 常設委員会等報告について
11. 2022年度業務状況報告について

審議事項は、資料1から資料5まで。報告事項は、資料6から資料16までです。

技術士会のホームページからログインしてすべての審議事項、報告事項、資料を閲覧することができます。議事録も閲覧できます。

九州本部の役員、会員の皆様のご支援のおかげで理事会に出席しています。審議事項と報告事項の議論だけで3時間以上の内容です。すべては報告できません。質問・要望は、下記メールアドレスにさせていただくと幸いです。

所属：産業開発コンサルタント株式会社
(E-mail: tanuma2@bronze.ocn.ne.jp)

統括本部総務委員会

総務委員会報告

総務委員 にしい やすひろ
西井 康浩
(建設、フェロー、CPD認定、博士(工学)・北九州)



このたび、広報委員会からのご依頼により、統括本部総務委員会報告を継続して掲載することになりました。宜しく申し上げます。まずは、統括本部総務委員会についてご紹介します。

統括本部総務委員会(以下、当委員会)は、公益社団法人日本技術士会(以下、本会)の組織運営を担う7つの常設委員会の中の1つです。本会ホームページで紹介されています当委員会の所掌は、「本会の秩序・信用の維持」、「本会の運営管理」、および「会員の顕彰に関する事項」となっています。また主要業務としては、①倫理審査の実施、②会長表彰・名誉会員の推挙など、③組織、役員選挙、名誉会員などの基本制度の検討、④定款等諸規程の管理(制定・改廃)、⑤地域組織・委員会・部会の運営に関わる事項の企画・立案、⑥会員活動グループの登録管

理、⑦著作物の本会名称の使用管理、⑧企業内、大学技術士会等との連携、⑨他の常設委員会の所掌にない事項への対応、となっています。なお当委員会では、8つの地域本部選出の委員から成る地域小委員会が、別途下部組織として設けられています。ここでは、地域組織のカパナンスの点検や地域に生じている問題について、情報交換を図る場となっています。当委員会と地域小委員会は、年6回偶数月に開催されており、午後の最初に地域小委員会、その後引き続き当委員会が開催されます。この技術士だよりでは、直近の活動内容の中から、主要なものをまとめて報告いたします。

●第6回総務委員会～6月23日

地域組織からの審議依頼として、九州本部から出された後援名義使用許諾申請が承認されました。また統括本部と地域本部間での委員会活動の連携に関する検討では、地域本部から委員会へウェブ会議を通じて参画・連携を図る在り方について審議(継続)されました。

●第6回地域小委員会～6月23日

名義使用許諾申請に係る事前審査書式と同様の申請手続きを簡素化する目的で整備を進めているホワイトリストの様式について審議(継続)されました。

(E-mail: nishii-yasuhiro@seagreen.ocn.ne.jp)

地域本部長会議

2022年度第1回 地域本部長会議報告

九州本部長 さ た け 佐竹 よ し ろ う 芳郎
(建設、総合技術監理・福岡)



2022年6月2日(木)オンライン会議で開催の2022年度第1回地域本部長会議の概要を報告する。

【寺井会長挨拶】

技術士CPD制度の実績管理について、この制度を工夫・広報し普及に取り組んで頂きたい。

【統括本部の報告】

1. CPD実績管理登録状況は、2021年度9月から開始し、2022年度4月からオンライン登録が開始された。CPDの登録を進めることは本会会員のミッションであり、役員から率先して登録して頂くことが重要であり、対応して欲しい。
 2. 統括本部と地域本部間での委員会活動の連携に関する検討(案)の説明があった。
- ウェブ会議の普及により、地域本部から委員を出すのを排除し、東京からすべて委員を出すのはおかしい。(中国)
- 今後、地域本部から意見を吸収するシステムを作っていきたい。テスト運用で、問題点を解決し

ていければと考えている。(統括本部)

3. 「個別徴収(都度支払)」するとき、オンラインでしたサイトに不正アクセスがあることを報告した。統括本部としては「一括支払」を推奨したい。
- 建コンでは個別領収書がないと会社に請求できず、自己負担になる。(中国)
- 一括支払いシステムで個別の領収書を出すことは、来期には対応できるシステムとしたい。(統括本部)

【地域本部の意見・要望、報告等】

1. 技術士新合格者説明会の開催日程が、統括本部の開催日程と重複した。統括本部の日程を早く公示して欲しい。(中部)
- 統括本部委員会に伝える。(統括本部)
2. 報告事項(主なもの)
- ・東北本部は、東日本大震災復興10年事業シンポジウムを7月22日に仙台市(せんだいメディアテーク)で開催予定。
 - ・北陸本部は、北東3地域本部技術士交流会を開催予定だが、日時・場所は未定。
 - ・近畿本部は、第48回技術士全国大会(奈良・関西)を10月28日~31日に奈良市(なら100年会館とホテル日航奈良)で開催予定。
 - ・中国本部は、西日本技術士研究業績発表年次大会を10月21日~22日に鳥取市(とりぎん文化会館)で開催予定。

所属：株式会社松浦重機

(E-mail: satake-yoshiro@ina.bbq.jp)

総務・企画委員会

活動報告

副本部長・総務・企画委員長 す え ま つ 末松 ま さ の り 正典
(機械、総合技術監理・福岡)



総務・企画委員会は2021年7月17日に開催された合同役員会で承認され、正式に活動を開始した。総数10名からなる委員会である。活動を開始して約1年となるが、所掌する範囲が以下の10項目にわたるため、3グループに分けた活動を行っている。その概要を以下にご紹介する。

【当委員会の所掌業務】(1)本部の組織・運営管理に関する事項、(2)本部主催行事の企画・実施に関する事項、(3)事業計画・報告案作成に関する事項、(4)財務の管理に関する事項、(5)統括本部、他地域本部、県支部及び他団体との連携に関する事項、(6)役員会運営及び実施に関する事項、(7)会員の顕彰に関する事項、(8)会員拡大に関する事項、(9)国際的活動に関する事項、(10)その他、他の委員会の所掌にない事項

1. 第1グループの活動(寺地*、田中、棚町)

(*印はグループリーダー)

所掌業務は上記(4)(5)(6)(7)である。これまでに、九

州本部の2022年度予算立案、外部団体への後援依頼承諾を行った。今年度はここまで、会員の顕彰に関する推薦者の検討や合同役員会の開催準備などに取り組んだ。

2. 第2グループの活動(寺師*、河野、藤島)

所掌業務は上記(2)(3)(5)である。これまでに、「(5)統括本部、他地域本部、県支部及び他団体との連携に関する事項」に関し、実施するアプローチ方法を検討してきた。2022年7月に大分県支部の関係者の方々の協力を得て他団体との連携方法などに関する意見交換を行った。

3. 第3グループの活動(清崎*、小柳、田沼)

所掌業務は上記(1)(8)(9)である。2021年度の活動での特筆すべき活動は、「先進建設・防災・減災技術フェアin熊本2021」(2021.11.24(水)~25(木)開催)への出展対応である。防災委員会による主導、熊本県支部の協力により、技術士会へのアンケートが133件に上るなどの成果が得られた。2022年度も対応する予定で検討を進めている。

4. その他の活動

九州本部の設立は1965年。2025年には設立60周年となる。他地域本部では「設立〇〇周年記念誌」の発刊が見られる。各種行事がある中だが、九州本部でも検討のタイミングにあり、関係者の意見を聞く必要があると考えている。

(E-mail: suematsu@hkg.odn.ne.jp)

委員会・部会報告

地域産業支援委員会

2021年度 地域産業支援委員会活動報告

地域産業支援委員長 まつなが えいはちろう
松永 榮八郎
(金属、機械・北九州)



地域産業支援委員会は、以下に示す3つの柱を掲げ活動している。

- (1)外部からの技術相談への対応
- (2)外部機関との連携継続と強化
- (3)力量向上と研鑽機会の場の設定・運用

1. 活動概況

上記(1)項は技術問題や従業員教育などの悩みを抱えた企業（個人企業を含む）を対象に、相談窓口を設け、経験を有する各部門技術士のアドバイザーを充実させ、相談者の意向に沿って組織的に対応している。なお、この事業テーマは、来る11月16日に統括本部技術士活性化委員会主催の「技術士が実施した支援・活性化の事例発表会」で、吉田副委員長が発表することをノミネートした。

(2)項は、経産局や産総研九州センター、県の行政機関及びニュービジネス推進団体などの外部団体と連携しながら施策の推進に協力している。また、11月22日には、「九州・沖縄産業技術オープンイノベーションデー」（主催：産総研九州センター、九経局）へ、日本技術士会九州本部として出展し、知名度の向上及び(1)項の技術相談を受け付ける。

(3)項は、各委員の技術士支援経験を発表することによる力量向上を主としたものである。

具体的な活動計画は、前報（7月発行の132号）で報告したので、ここでは上記(2)項の具体例として、通称「一金会」の交流活動の状況を報告する。

2. 「一金会」とは

正式名称は「産学官交流研究会博多セミナー」（主催：九州経済産業局、産総研九州センター、中小企業基盤整備機構九州本部、九州オープンイノベーションセンター、九州ニュービジネス協議会）で、原則1月8月を除き毎月第1金曜日に開催される。

講演会は、冒頭の佐伯会長の挨拶に続き、講演1テーマと10分程度のショートプレゼンで施策紹介等の2部構成である。講演者は、公的機関のトップの登壇もあるが、著名な成果を出されている地場企業の代表取締役の場合が多い。後者の講演では、技術の説明よりも、社長としてどのような経営理念を

もって会社を変革し、成果を生み出してきたか等、半生を振り返っての人生観等が熱く語られる。

3. 最近の「一金会」講演の紹介

参考のため、最近の講演から感銘を受けたものの一部を紹介する。

(1)R4.4.8開催：「感謝して～後進へ伝える私の人生観、経営観～」（(株)ピーエムティー、(株)シンクアイホールディングス代表取締役・CEO京谷忠幸氏）：講演者は、9才で父親を亡くし、さらに膨大な借金を残し16才時母親をも亡くした。貧困の中、小4より始めた新聞配達等で家計を助けた。一旦進学は諦めかけたが教師の助言で、授業料免除の高専に進学。20歳の時、「できないと言っていた事は、全て自身がやろうとしなかった言い訳」だと悟り、「できる方法を考え有限の人生を歩もう」と決意してから人生が好転したと。日本タングステンで製造技術者として勤務後独立。「超精密軸制御技術」をコアコンピタンスとする技術経営を展開された。社長業の傍ら山口大学大学院技術経営研究科に学び、続いて理工学部博士課程を修了された。学んだ科学的マネジメント手法を自らの経営で実践、常に、イノベーションを追求する情熱家である。「心を高め社会と共生する」が経営理念で、若い時期から稲盛和夫氏を師と仰ぐ。「謙虚にして驕らず更に努力を」等を座右の銘とし、従業員との対話を重んじる姿勢には、聴講していて圧倒された。

(2)R4.7.1開催：「『世界一の刃物メーカーへ！』その壮大な夢との戦い！」（(株)ファインテック代表取締役社長 兼 最高技術責任者 本木敏彦氏）：ものづくり日本大賞経産大臣賞を受賞した柳川市の刃物メーカー。「私たちは刃物を売っていません。売っているのは切断品質という価値です」のスローガンや「柳川を刃物の街にしたい」と熱く語られる姿に接すれば、当社の本質が想像できる。町工場から現在の地位を築かれた背景にはサポイン事業を活用した技術経営にあった。名刺を数枚に縦切りしたり、太さ0.1mmの髪の毛を縦切りする精密切削技術を確立し、現在では医療分野にも進出している。そこには、切断という旧来からの固定観念を打破し未来へ展開しようとする飽くなき情熱が感じられる。

このように、一金会は有益な演題を厳選されている。コロナ禍で現状Web主体であるが、どなたも無料で参加できるので、参加しては如何か。

所属：三菱重工環境・化学エンジニアリング株式会社
(E-mail：eihachiro.matsunaga.xe@mhi.com)

防災委員会

活動紹介

防災委員長 **持田 たくし 拓児**
(建設・福岡)



1. はじめに

防災委員会では、発災前の活動と発災後の活動を並行して行い、地域に密着した取り組みを目指して活動を行っております。

発災前の活動では、「自然災害での死者、行方不明者をゼロにすること」をテーマとして、被災する前に、如何に素早く「避難スイッチ」を押すことが出来るのか、そこに着目した“防災教育授業”への取り組みを昨年度より開始しております。

発災後の活動では、土業連携に参加し、日頃から顔の見える活動を行っています。いざ発災した際には、土業が連携することにより、被災者への継続支援が可能となるように活動しています。

2. 防災委員会の活動

(1) 発災前の活動

1) 防災委員会の開催

防災委員会は、原則として年に4回開催し、毎回「防災委員による発表」を委員が持ち回りで1時間程度実施することにより、発表者及び聴講者相互の研鑽の場を設けております。

委員会での主な議事は、WG1、WG2、WG3の活動状況報告、防災支援委員会・他地域本部の活動報告、及び連絡事項について意見交換を行っています。

2) 各WGの活動(通年で活動)

●WG 1：災害リサーチチーム

- ・福岡県内で発生した災害伝承碑及び災害履歴等を災害種別毎に取りまとめ、情報収集分析等を担います。
- ・WG 2(小学5年生)、WG 3(小学4年生)が実施する防災教育授業に、情報収集した資料を提供します。

●WG 2：災害リスク管理チーム

- ・「九州本部技術士会員向けアンケート調査」を毎年実施し、アンケート調査の取りまとめを行います。
- ・直方市の小学校で5年生を対象として、“防災の知識、地域のことを知る”ことを目的とした防災教育授業を実施します。「①自分の住んでいる地域の地形などを知る」、「②過去に起こった地域の災害を知る」、「③危険な場所、安全な場所を考え、自分たちの周りの環境はどうなっているのか考える」という内容で、今年度中の実施を目指して活

動を行っています。

●WG 3：災害サポートチーム

- ・防災教育授業を開催し、子供たちに「避難スイッチ」を身に付けてもらう取り組みを行っています。



写真1 防災教育(4年生)の様子

- ・直方市の教育委員会を通し、直方市の小学4年生を対象として、「どうして、防災の勉強をしないといけないのか動機付け」を目的とした防災教育授業を実施しています。「①この勉強をすることが、自分と家族を守る」、「②気候が変わり、これまで経験したことが無いような雨が降る」、「③家族を守るためにどうしたらよいか考える」という内容で2度開催しております。

3) 拡大委員会(各県支部防災担当者との連携)

各県支部防災担当者と意見交換することを目的として、年に1回開催しております。また、防災委員会をWEB併用形式で開催し、県支部防災担当者にも可能な限り参加いただいております。昨年より“先進建設・防災・減災技術フェアin熊本”に熊本県支部と合同でブース出展するなど、今後も、各県支部と緊密に連携して活動を行いたいと考えております。

(2) 発災後の活動

1) 被災者支援制度研究会(土業連携)

「福岡県被災者支援制度研究会」に参加し、年間5～6回の勉強会を行っています。研究会に加盟している団体は、福岡県弁護士会など法律系団体、日本技術士会や福岡県建築士会など技術系団体、その他福祉系団体や自治体など15団体以上です。

福岡県内で大きな災害が発生した際、被災者支援相談会に参加するなど、土業が連携して支援できるように日頃から体制強化を行っています。

2) 災害時支援活動計画(SAPD)の策定

災害時支援活動を実施するための「体制と役割」及び「活動フロー」を計画し、発災時各段階で実施する活動内容、復旧・復興期の対応について整理し、防災委員会版や各県支部版の災害時支援活動計画(SAPD)の策定を今後検討していきます。

3. おわりに

九州本部防災委員会では、委員のスキルアップ、地域への社会貢献活動、そして子供たちへの防災教育活動を今後も継続して行いたいと考えております。

所属：株式会社和晃地質コンサルタント
(E-mail: t-motida@wakou-tisitu.co.jp)

委員会・部会報告

倫理委員会

6月定例会での 講演及び事例報告

九州本部長 ^{さ た け} 佐竹 ^{よ し ろ う} 芳郎
(建設、総合技術監理・福岡)



1. はじめに

私は、倫理委員会に委員として参加して1年強です。4つのタスクチームの内、連携交流タスクチームに属しています。今、中国本部の倫理委員会との連携による11月19日開催のCPD講演会の共同開催について検討しています。

今回は、6月18日開催の倫理委員会第1回定例会での特別講演と九州版倫理テキストにおける事例研究(データ改竄への対応)を報告します。

2. 「技術士に求められている倫理(Do no harm)」

橋本義平(日本技術士会 技術者倫理研究会代表)
プロフェッショナルな技術者は、「価値判断の基準」を把握していなければならない。

日本の技術士(特に企業内技術士)は、会社組織の一員であることの前に、「専門職技術者というプロフェッションの一員」たる技術士であることを意識する必要がある。結局のところ個人として公衆を意識することが重要である。Engineering Ethicsを技術者倫理と読み替えたことで、技術者(士)だけが倫理を担うものと思われがちである。実際は、技術者や経営者など皆が倫理を考慮すべきである。

人は、自分自身のためならば考えもしないような悪いことも、会社のためなら行い易い傾向がある。「お天道様が見ているよ」という自省の心こそ重要である。

技術士は、職能の高さゆえ公益に奉仕する使命感と掟を守る自律心が重要である。(noblesse Oblige)

技術士として自分が正しいかを問う独自の規範こそ、プロフェッショナルの本質がある。

「Do no harm(他人に害になることはしない)」が技術士に求められる倫理として簡単でふさわしい表現である。

日野自動車によるエンジン認証(排ガス)の不正事例は、不正を誤魔化したことでエンジンの型式指定が取り消され、黒字から大きな赤字に転落した。

一方、コマツの良い例として、「運転検査課長」は、

品質検査において社長や工場長よりも強い権限があり、ある事故に対して「欠陥の隠蔽や誤魔化しは致命傷だ」との考えに基づき、素早いリコールを実施することで、信頼を獲得した。今後、「やらなければならない事は、やるんだ」と強い信念を持った技術士が求められる。周囲から頼もしいと思われる技術者になって欲しい。

3. 九州版倫理テキストにおける事例研究(データ改竄への対応) 下津義弘(九州本部倫理委員)

横須賀原潜入港時の放射性物質・放射線量測定の際「分析化研(日本分析化学研究所)事件」が発生した。日本分析化学研究所は、実際の資料を測定しないで既存の波形図をコピーしていたものが多数あることが判明した。上記事件が発覚した際に、環境測定を行う者の資格、データ改竄に対する処罰を行える法的根拠が存在しなかった。

このことを契機に計量法の改正が行われ、濃度の計量を計量法の対象とすること、環境計量士資格を創設する法改正が行われた。環境計量士と環境計量証明事業所登録制度は、1974年の一部改正に基づいて開始された。

環境計測士としての実務で、データ改竄を要求された事例が多々あった。ここで改竄を受け入れたら、今は助かったと思うかもしれないが、今後において私の印鑑が押された計量証明書を見た時に数値を信用することができるのか。自分と属する組織等の信用を損なうため改竄は行えない。このような主旨に沿って断った。

環境計量士として生み出した製品を自分も安心して使えるか。これが一つの判断基準となる。

データ改竄は技術者と組織の自己否定でしかない。日本企業に問われるのは「自浄能力」である。内部告発は少数。大企業における自分たちの製品には間違いがないとのおごりがある。

規範意識の欠如がある。「会社や家族を守るための不正」は間違い。「自分が不正を行えば、会社や家族を守ることができなくなる」が正しい。

データ改竄はなぜ起こる、起こすかは、一つは閉鎖的な組織の弊害(タコツボ現象)がみられるからだ。それが、「経営と現場の乖離」を増長させた。

二つ目は、集団思考(集団浅慮)だ。冷静で客観的な判断よりも、集団のまとまりを維持することに注意がいつてしまうからである。

所属：株式会社松浦重機
(E-mail: satake-yoshiro@ina.bbq.jp)

青年技術士交流委員会

委員会の活動報告 について

青年技術士交流委員 **大川 至**
(建設・佐賀)



1. はじめに

今回は、青年技術士交流委員会が開催したゴルフ大会と、全国の青年技術士交流委員会メンバーを対象とした拡大委員会に参加した様子を報告します。

2. ゴルフ大会について

6月18日(土)に福岡県久留米市にある久留米カントリークラブにて開催しました。事前に青年技術士交流委員会メーリングリストに登録していただいている方に募集したところ若手からベテランまで10名の方が参加してくださいました。梅雨時期ということもあり、開催日まで天気予報を確認するたびに一喜一憂していましたが、当日は、熱中症対策が必要なくらいの快晴に恵まれました。

今はどのゴルフ場も標準装備かもしれませんが、GPS付きゴルフカートだったので、ピンまでの距離、高低差がひと目で分かるようになっていました。また、スコア入力画面、リーダーズボード機能があり、様々な技術により便利になったと感心しながら一進一退の順位変動も楽しむことができました。

今回のコースは距離が短い上に狭く、OBに囲まれた戦略性の高いコースであり、いつも以上にコースマネジメントが必要でしたが、ベテランの皆さんは若手にありがちな飛距離重視のゴルフではなく手堅いゴルフで高スコアを出されていました。ダブルペリア方式のハンディキャップ無制限での順位付けでしたが、優勝スコアはハンディキャップ13.2、ネット71.8、グロス85というハイスコアでした。

夜の部では懇親会を開催し、初めて参加していただいた方達とも大いに交流・親睦を深めることができました。



新型コロナウイルスの感染拡大により、過去2回中止を余儀なくされましたが、皆様のご協力のおかげで約2年半ぶりに無事に開催できたことをこの場を借りて御礼申し上げます。次回は11月に開催予定です。皆様のご参加お待ちしております。

3. 拡大委員会について

6月25日(土)に機械振興会館で対面とウェブによるハイブリット形式で開催され、青年の山田委員長と松永前委員長が現地参加しました。コロナ禍で、ハイブリット形式でのイベント開催が主流となり、拡大委員会でもオンライン参加者が増えていますが、他地域の青年からは、四国本部の白鳥委員長、中国本部の新淵委員長が現地参加されました。

主催者である統括本部(青年技術士支援委員会に名称変更)の河野委員長らとお互いの活動近況などについて共有し、交流・親睦を深めてきました。

当日の内容については以下のとおりです。

- 1) 拡大委員会：統括青年の2021年度活動報告・決算内容、2022年度活動計画・予算内容について議事・承認
- 2) 各地域本部交流会：各地域本部の2021年度活動報告、2022年度活動計画の紹介
- 3) 大懇親会：交流会後の飲み会で今回は新しい試みとして、メタバース上で実施



- 4) 大懇親会后、東京タワー下のハイボールガーデンで打ち上げ

やっぱり腹を割った話というのはオフライン(現地参加)での飲みニケーションに勝るものはないと月並みな感想を抱きつつ、九州の青年でもオフラインで親睦を深める機会を増やしていきたいと決意を新たにす良い機会となりました。

※2)については、Zoomで青年メンバーにも一般公開し当委員会から吉原氏が参加してくれました
※3)メタバースプラットフォーム：「cluster」
(<https://cluster.mu/>)

4. おわりに

当委員会では随時、メーリングリスト会員を募集しています。興味のある方はご登録よろしくお願いたします。

・登録URL

<https://bit.ly/3fxXsnv>



所属：松尾建設株式会社
(E-mail: okawa-itaru@matsuo.gr.jp)

委員会・部会報告

北九州地区支援委員会

支援委員会活動報告

北九州地区支援委員長 さくら かつひこ
佐倉 克彦
(化学・北九州)



1. 2021年度の活動実績

北九州地区支部支援委員会は、1980年に活動を開始し、「社会に認められる技術士としての資質を維持・向上できるように活動する」および「地域社会に貢献できる活動を活発化する」の方針を掲げ、日々研鑽に励んでいる。今回は、2021年度の活動実績と2022年度8月までの活動実績と計画について報告する。2021年度は、新型コロナウイルス感染症対策として各種行事を会場とweb会議の併用にて実施する体制が定着した。また、web会議の導入により会場の3密が回避できると同時に北九州地区支部支援委員会の活動を遠隔地まで発信できるようになった。

(1)地区支部の年次大会・委員会活動・CPD活動

①支援委員会

支援委員長・顧問で構成される委員会をweb会議（2回）とメール会議（3回）実施した。

②年次大会

6月12日（土）に北九州地区支部支援委員会として初めてweb会議のみで開催した。

③CPD活動

北九州市環境ミュージアムを新たな会場に変更して合計11回（会場、web会議併用：9回、web会議のみ：2回）開催した。

(2)行事

①公開シンポジウム

12月に技術士と一般市民参加による第12回公開シンポジウムを「北九州地域としてのSDGsの推進について」をテーマとして開催した。

②第一次試験、第二次試験説明会

第二次試験説明会と合格者体験談報告は会場、web会議併用としたが、第一次試験説明会と合格者体験談報告はweb会議のみとした。

③施設見学会

訪問先への新型コロナウイルス感染防止を考慮してCPDへ変更した。

(3)その他

①祝賀会、忘年会等

北九州地区支部支援委員会40周年、400回CPD記念祝賀会、一次試験・二次試験合格者祝賀会、忘年会は2022年度に延期した。

2. 2022年度の活動実績と計画

(1)地区支部の年次大会・委員会活動・CPD活動

北九州市環境ミュージアムにて会場とweb会議併用にて活動を開始した。web会議は適宜機材を更新して配信環境の充実を図っている。

①支援委員会

8月までにweb会議を3回実施した。2022年度内に5回程度開催予定。

②年次大会

6月11日（土）に会場、web会議 併用で開催した。

③CPD活動

北九州地区支部支援委員会が北九州市環境局から認定される「環境保全団体登録」を継続し、北九州市環境ミュージアムの減免利用を図るため環境分野のテーマを積極的に採用したい。また、統括本部新CPD行事登録システムを導入した結果、CPDの参加者把握とCPD行事参加票発行等の効率化が図れた。

(2)行事

①公開シンポジウム

12月10日（土）に時代背景を考慮して「北九州地域の循環型経済と脱炭素社会の実現に向けて」をテーマとし「デジタルトランスフォーメーションを切り口として」をサブテーマに開催する。2022年度も主催を九州本部とし技術士と一般市民参加による公開シンポジウムとする。

②第一次試験、第二次試験説明会

4月9日（土）に第二次試験説明会と合格者体験談発表、6月11日（土）に第一次試験説明会と合格者体験談発表をそれぞれ会場、web会議併用で実施した。

③施設見学会

2022年度もCPDへ変更する。

(3)その他

北九州地区支部支援委員会40周年、400回CPD記念祝賀会、一次・二次試験合格者祝賀会、忘年会は新型コロナウイルス感染症対策を考慮して延期する予定である。

所属：(公財)福岡県リサイクル総合研究事業化センター
(E-mail : k_sakuranske@yahoo.co.jp)

試験業務支援委員会

活動報告

試験業務支援委員長 **服部 弘政**
(電気電子・福岡)



令和4年7月17日(日)に令和4年度技術士第二次試験総合技術監理部門を、18日(月)に総合技術監理部門以外の20技術部門を福岡工業大学にて実施し完了しました。総合技術監理部門受験状況は、必須I-2では申込者数373人、受験者数289人、欠席者数84人、受験率77.5%、全国平均受験率79.1%でした。総合技術監理部門以外の20技術部門受験状況は、必須科目Iでは申込者数2592人、受験者数1963人、欠席者数629人、受験率75.7%でした。全国平均受験率77.8%を少し下まわりました。本試験を実施するにあたって、6月28日(木)に九州本部会議室で委員会を行いコロナ対策、各自の役割等の確認しました。

また、LINEを使用して試験委員会グループを作り、お互いの情報共有を図り連絡を密にしました。

7月5日(火)に技術士試験に係る地域本部等担当者会議に出席しました。会議内容は、①筆記試験実施・監督マニュアルの変更点について②線状降水帯の予測開始に伴う対応について③不正対策について④質疑応答でした。これにより統括本部との意思疎通がはかれました。

試験当日は新型コロナウイルス感染症対策を行いました。また、特別配慮者が17日に2名、18日に8名おられたため、その対応に留意しました。試験は問題なく実施し、完了しました。

8月3日(水)に関係者で福岡工業大学の管財課を訪問し技術士第二次試験完了の御礼に行き意見交換を行ないました。また令和5年度技術士第二次試験会場のお願いをしました。試験日が決定次第福岡工業大学へ正式に申込みを行う予定です。

今後、11月27日(日)の技術士第一次試験に向けて準備及び調整を行います。なお、試験会場は九州産業大学です。また、新型コロナウイルス感染症対策を行う必要があると考えています。

所属：服部技術士事務所
(E-mail: rbnbf375@yahoo.co.jp)

建設部会

建設部会報告

建設部会長 **岡田 裕彰**
(建設、総合技術監理・福岡)



1) 建設部会の今年度の活動について

ワクチン接種も進み、『ウイズ・コロナ』として、ようやく日常が戻りつつあると安心していたところ、7月に入って第7波の感染が急拡大し、この原稿を書いている時点で、九州の各県でも新規陽性者数が過去最多を更新するなど感染がピークを迎えている状況となりました。政府や自治体は、当面は、行動制限などは実施しないとの事ですが、今後の建設部会の活動への影響も懸念されますので、引き続き状況を注視する必要があります。

感染対策と社会活動の両立を図ることの難しさを痛感しますが、いずれにしても現段階においては、今年の6月10日に日本技術士会から出された『新型コロナウイルスへの対応方針』に基づき、会員の皆様が安心して技術研鑽できるよう工夫して活動を

実施していきたいと考えています。

2) 技術士全国大会建設部会意見交換会

第48回技術士全国大会(奈良・関西)が10月28日(金)から31日(月)までの間、奈良市内で開催され、大会の関連行事として10月28日(金)に建設部会の意見交換会が開かれる予定です。

この意見交換会は全国の建設部会の活動内容や課題等を共有できる貴重な機会となります。WEBによる同時配信も予定されていますので、九州本部建設部会会員の積極的な参加をお願いします。

3) CPDの実績管理について

既にご承知の通り、昨年9月に文部科学省の省令が改正され、今年の4月よりCPDの実績管理及び活用制度が開始されています。

CPDの活動実績の記載申請は日本技術士会の会員専用コンテンツ(マイページ)より簡単に申請できます。この制度を利用し、多くの会員の皆さんにCPDの実績登録をしていただきたいと思います。まだ登録がお済みでない皆様は、実績登録をよろしくお願いします。

所属：西鉄シー・イー・コンサルタント株式会社
(E-mail: okada@ncec.co.jp)

委員会・部会報告

環境部会

「環境部会報告」

環境部会長 まつお たかのり
松尾 孝則
(上下水道、総合技術監理・福岡)



1. はじめに

約2年ぶりとなる環境部会主催の現地視察研修会を令和4年6月8日(水)午後2時～午後4時に開催した。

今回の現地視察研修会は、ウイズコロナの中での開催であるため、少人数且つ、試行的にという前提条件により福岡市中部水処理センターにご協力していただいた。

このため、日本技術士会九州本部環境部会会員の皆様限定し、また、先着15名様のみ参加とするとともに、密集のリスクを回避するため、現地集合・現地解散を条件とした。

今回の研修テーマは、下水を処理する過程で発生する「処理水・汚泥・消化ガス」を再生し、資源としての有効活用、並びに地球温暖化緩和策等への取組について視察を実施したものである。

1. 再生水利用

原理は、下水処理水に「凝集剤を添加」して処理水内の不純物を沈殿させ、「前繊維ろ過」により更に小さな浮遊物を除去し、「オゾン」により脱色・脱臭を行い、「次亜塩素酸ナトリウム」で消毒しポンプで加圧して、再度繊維ろ過機に通し水質を安定・向上させ福岡市内に供給している。

供給区域は天神・渡辺通り他で約1,020haであり、供給施設数441ヵ所に供給し、主にトイレ用水として利用されている。

この事業は、都市内の貴重な水資源である下水処理水を有効活用することにより循環型社会に貢献するものである。



2. FIT事業

FIT事業とは、固定価格買取制度を活用し、収益を得る事業である。

原理は、消化ガスを燃料としてエンジン(外国製)を回転、バイオマス電気を発生させ電気事業者に販売する。また、ガスエンジンを回転させる際に発生する排熱を利用し、消化槽の加温に利用することにより、消化槽の汚泥から発生する消化ガスの安定供給となり資源の循環が形成されるとともに地球温暖化緩和策に貢献するものである。

- ・ガスエンジン発電機(365KW×3台)
- ・ガスエンジン発電機(452kw×2台)



3. 水素ステーション

水素ステーションは、当センターの下水処理によって発生した消化ガス(下水バイオマス)を原料として水素を製造し、燃料電池自動車(FCV)に供給する施設である。

原理としては、消化ガス(主成分メタンガスCH₄約60%、二酸化炭素CO₂約40%)を膜分離装置によりメタンガスCH₄約92%を水素製造装置により高純度水素H₂(99.999%)を製造する。このような仕組みにより、二酸化炭素を排出しない方法でクリーン水素を製造し、地球温暖化緩和策に貢献するものである。

4. おわりに

今回の現地視察研修会は、中部水処理センターのご協力により「3密」を回避する対策を講じていただくとともに、少人数による対面形式にて、無事に終了した。

次回、環境部会主催の技術講演会は、11月25日「少数人での対面形式とオンライン形式」の併用での開催を予定している。

最後になりますが、お忙しい中、丁寧でわかりやすいご説明をしていただきました。福岡市中部水処理センターの所長、担当係長の皆様に、心より感謝申し上げます。



所属：大和コンサル株式会社
(E-mail: matuo@daiwaconsul.co.jp)

第1回CPD報告

研修委員長 ^{てらし} 寺師 ^{まさひろ} 政廣
(上下水道・北九州)



令和4年5月28日(土)、福岡商工会議所で2022年度第1回CPDが開催され、104名(会場44名、Web60名)の参加があった。今回もWeb配信併用のCPDとなった。コロナ禍のため、会場では座席数の1/3程度に制限した。



受講風景

1. 福岡県出前講座「災害時の適切な避難行動～命を守るための自助・共助～」講師：許山 将平氏 (福岡県防災危機管理局消防防災指導課)

福岡県では、平成29年の九州北部豪雨以降、平成30年7月豪雨、令和元年7月、8月の大雨、そして令和2年7月豪雨と、4年連続で自然災害に見舞われている。災害に備えるため、日頃から、ハザードマップや防災情報等を確認し、避難のタイミング、避難方法等について、決めておくことの重要性を説明。また、自主防災組織の役割と活動事例を紹介し、災害時及び平時における自助、共助の取組について説明。災害時に適切な避難行動をとるためには、「当事者意識を持つこと！」が最も大切であると強調された。



許山将平先生

また、防災メール・まもるくんを登録すれば、避難情報、災害時の安否情報や地域の安全に関する情報がメール配信されるので活用しよう。

2. 「コンポスト化の基礎理論～高倉式コンポスト」講師：高倉弘二氏(高倉環境研究所、博士(工学)・技術士/衛生工学・環境)

コンポストとは、落ち葉や枯れ草、野菜くずなどの植物残渣を、微生物の働きで分解、発酵させて作られた堆肥のことである。今までの経験則ではなく理論づけしたことに意義がある。



高倉弘二先生

堆肥化は有機物の分解の状態から大きく3段階に分けることができ、それぞれの段

階に応じて微生物相が遷移する。この遷移をスムーズにするために、あらかじめ微生物をシードコンポストとして培養しておく。このとき使用する微生物は特殊なものではなく身近な種類を利用したことが評価される。

高倉式コンポストは現地で容易に適正化することができるコンポスト化技術として、アジア圏、中南米圏を中心に広がりを見せている。

3. 「新媒体イオン液体が実現する人と地球環境にやさしい化学」講師：信岡かおる氏(大分大学理工学部共創理工学科応用化学コース准教授/博士(薬学))

イオン液体は、水、有機溶剤(クロロホルム、ベンゼンなど)に続く第3の媒体と呼ばれるグリーン媒体の一つである。最初の発見は1914年であるが、当時はほとんど注目されなかった。



信岡かおる先生

イオン液体は、化学的に・熱的に安定、蒸発しない、難燃性、電気伝導性、多様な物質をよく溶解するといった塩ならではの特徴や、再生・再利用が可能なることから持続可能な媒体として期待されている。

イオン液体を水や有機溶剤の代わりとして使うこともできるが、講演者は、医薬品合成の触媒的媒体に応用可能なキラリイオン液体、発光するイオン液体や生体高分子の機能化などに取組まれている。

4. 「人の視覚モデルを用いた画像補正、及び、注意モデルのロボット導入」講師：石井和男氏(九州工業大学大学院生命体工学研究科人間知能システム工学専攻教授/博士(工学))

広大な海洋では、未調査の海域が大半であり、時空間にわたる持続的な調査が求められている。海中調査の自動化が強求められており、水中ロボットがその道具として期待されている。



石井和男先生

色補正技術は、深海底画像の照明による色むらの影響を減衰させ、サンプリング対象を認識しやすくすることを目的とした。人の視覚系の特徴である色恒常性を説明するためのものであるRetinexモデルを応用し画像内の照明成分を推定、色補正を行う手法を提案された。

注意モデルによる生物認識では、Saliencyモデルを用いた。輝度、色差、エッジの強さを統合して注目領域を選定する手法である。

所属：株式会社三洋コンサルタント
(E-mail: masahiro_terashi@kyudai.jp)

CPD報告

福岡

第2回CPD報告

研修副委員長 **にしお ゆきお**
西尾 行生
(機械、博士(工学)・福岡)



7月23日(土)に福岡商工会議所にて2022年度第2回CPDを実施したので報告する。

オンライン33名を含む参加者73名の参加で開催し、以下4名の講師による講演をいただいた。

1)【人と地域を元気にするためのネットワーク(人脈)構築論】松尾 啓三氏 技術士(建設)

ご講演は、土木技術者、保険会社、地域シンクタンクなど多くの経験をされ、港湾活性や地域活性化の業務を通して地域振興・創成を発想・提案・実験・実行と目標実現まで順を追って述べられた。その経験を通して地熱発電、小水力発電、ごみ利用の蓄電、燃料電池についてのエネルギー視点とまちづくりのお話をされた。どんな技術やシステムでも最終的には人が動かし、単独の技術ではなく、人脈という切り口から技術と技術をつなげ、地域貢献ができると整理された。



2)【九州・山口地方における沿岸防災の最新の研究】井手 喜彦氏(九州大学大学院工学研究院アジア防災研究センター 博士(理学))

有明海・洞海湾を事例に海面上昇・高潮のリスクを技術的側面から述べられた。海峡型高潮はエクマン輸送を条件に入れるとシミュレーションで再現できるが長時間続く理由については謎で、学術的研究価値がある。d4PDFを使っ

ての台風経路の探索技術では、グリッドサーチ法による予測点に対し、不確実性、ガウス過程回帰によるベイズ最適化で現状の10倍の効率化が見込め、この手法で回転や平行移動のパラメータを加えたより確度の高い予測ができる事を示された。又、計算を用いた海岸工学における予測技術は過去の歴史検証についても科学的な検証で貢献できるという事も説明された。



3)【プログラム&プロジェクトマネジメントによるイノベーションの実現】芝尾 芳昭氏(イノベーションマネジメント株式会社 代表取締役/博士(経営学))

近年は自動車業界で製品開発において、コンサルタントをしておられ、実体験をもとに、イノベーションとプロジェクトの関係、プロジェクトマネジメント、人的資源の重要性について述べられた。ノキアとアップルの例では、僅か10年程度で市場価値に100倍の変化が見られ、

これがイノベーションのすごさである。講演では発想をどうかえればイノベーションが起こせるのかという説明をされた。又、人のリーダーシップの重要性についても強調された。マネジメントは権限で動かすが、リーダーシップは権限を越えて動かす能力であると語られた。そこには信頼関係も大事であり組織外にも知名度があって外部からの支援を得る人脈も重要であるという事である。



4)【これからの治水対策気候変動と流域治水】島本 和仁氏(国土交通省九州地方整備局 河川部長)

気候変動がもたらす災害の激甚化は九州においても顕著であるが、国土交通省のお立場で球磨川の状況とその対応、流域治水の重要性は制度がようやくできつつあるという話題で講演をいただいた。海水温、降雨の状況から、災害発生との関連を分析・解釈すると、いつでもどこでも災害が起こりうることからこれまでの施策が通用する状況になく整備の速度よりも気候変動の方が早いと判断でき根本的に発想を変える必要がある。IPCCの気温上昇シナリオを基に予測計算し、災害頻度を推定すると2030年には現在の2倍のリスクになる。国はIPCCの2℃シナリオの1.1倍のマージンを見て計画を立てている。本講演の本質は、明治以降河川法は国民平等な安全性の確保をしてきたが、今やろうとしている流域治水は公権力でそこに穴をあけるようなもので、人口が減る中でこういうところで模索的に動いているというのが実態でこのことである。気候変動のリスクをあらゆる立場の人々がこの難しい問題に挑戦しているという事であろうとくくられた。



所属：国立大学法人九州工業大学
(E-mail : nishio_yukio_pe@ab.auone-net.jp)

長 崎

長崎県支部 第1回研修会報告

事務局長 おりた さだよし
折田 定良
(建設・長崎)



去る6月18日、諫早市にて正会員36名、非会員16名 合計52名にて、長崎県支部第1回CPD研修会を開催しましたので報告します。

1) 「SDGs達成に向けた長崎県の取り組み」 ：園田圭介氏（長崎県企画部政策企画課）

2015年9月に国連サミットで採択され、2030年を目標とするSDGsについて、長崎県の取り組みと現状について講演されました。幅広い17の目標を掲げるSDGsですが、技術（士）を対象に目標に対する技術的取り組みを、ほ場整備等による農産物の生産向上、ICTを活用した測量・施工による産業と技術革新の基盤づくり、防災・減災対策による住み続けられるまちづくり等を例にSDGsの内容や問題点の解説がありました。さらに、SDGsが企業にとって新たなビジネスチャンスとなり、人材確



保や資金調達など有益であることを解かれました。最後に長崎県の取り組みとして県民向け普及・啓発および事業者の登録制度について説明がありました。

2) 「権力・法律・宗教と技術者倫理」 ：岩尾雄四郎氏（エスジー技術コンサルタント）

講師が、永く手掛けてきた学生向けの「技術者倫理」を基に、倫理教育について講演されました。

古典的な哲学から、モラル、さらに狭義の倫理などの倫理観は、自然科学と社会科学における真理の探究や、社会システム、権力、法律、宗教により、歪められることも多く、近年ではともすれば技術者の失敗例を中心とした倫理教育が横行し、倫理教育が不鮮明となっていることを指摘されました。

技術者は個人の倫理、専門家の倫理、組織の倫理の多面的な立場をもち、広範囲な解のない倫理について様々な視点から、帰納法・演繹法による仮説の証明、大陸移動説、権力者・為政者による統制など例を挙げ解説されました。

締めとして、倫理は法律や制度、宗教とは無縁の思考であり、技術者は『より良い社会づくり』の観点から、常に倫理観を見直していくことが重要であると強調されました。

所属：株式会社五省コンサルタント長崎事務所
(E-mail : s.orita@so-net.ne.jp)



大 分

大分支部 CPD報告

研修委員長 みやざき たつひこ
宮崎 辰彦
(建設、総合技術監理・大分)



(公社)日本技術士会九州本部大分県支部の令和4年度第1回CPD研修会(通算43回)は、予定通り6月4日(土)に大分県教育会館大ホールで行いました。今回の研修会も、新型コロナの影響により、Web講習会との併用になり、大分県技術士会、大分県測量設計コンサルタント協会、土木施工管理技士会共に、個人及び所属会社でのWeb講習会とし、会場では、大分県技術士会と土木施工管理技士会は従来の参加とに分け、参加者を少なくする方法とし、本稿ではその内容を紹介します。

1. 講演内容

研修会の演題及び講師の先生方は以下のとおりです。

- ①「巨大地震に立ち向かう-大分県の地震津波防災のための基礎知識と最新動向」(金子 光弘先生)
- ②「コンクリート構造物の補修補強における

最近の話題」(財津 公明先生) ③「防災・減災の地山補強土PAN WALL(パンウォール)工法について」(村瀬 安彦先生) ④「環境について~我々は環境にどう向き合えば良いのか」(軸丸 恒宏先生) ⑤「技術者倫理-技術者倫理と研究者倫理」(岩見 裕子先生)以上の5項目です。

講演内容は、地元大分の巨大地震に関する取り組みを初め、補修技術・災害関連メーカーの技術紹介、県内技術士による環境問題・技術者倫理等多様なものとした。

2. 講演の趣旨

①では、「災害大国」である我が国において、大分県内での発生した巨大地震を教訓として、発生メカニズムや今後を含めた最新の動向等を講演いただきました。②では、コンクリート構造物の補修・補強にあたり、長寿命化技術の最近の動向を講演いただきました。③では、防災・減災の観点から地山補強工法となるPAN WALL(パンウォール)工法を講演いただきました。④・⑤では、大分県技術士会に属する技術士による各自の専門分野からの事項について、環境問題に関する向き合い方の取組や方法、倫理問題から技術者及び研究者からみた倫理の基本的な在り方等を講演いただきました。

尚、今年度もあと2回の研修会を予定しています。

(E-mail : tmcts@ab.auone-net.jp)

支部だより

佐 賀

第1回技術懇話会の開催

～ 地域の活性化をテーマに ～

佐賀県支部長 もりなが やすひろ
盛永 保弘
(農業・佐賀)



令和4年5月28日(土)に「令和4年度 第1回技術懇話会」をメートプラザ佐賀(佐賀市)で開催しました。佐賀県支部では、毎年、春と秋に技術懇話会(CDP)を開催し、令和元年度からは「地域の活性化」をテーマに5年間の継続を目標にしています。今回の技術懇話会は、伝統的な町並みや建築物の保存と活用について、32人の参加で行いました。

テーマ1：呼子の町並み保存と活性化事業～重要伝統的建造物群保存地区指定を目指す取り組み～

講師：港町呼子まちなみ保存協議会・からつへりテージ機構 事務局 無津呂 進 氏

唐津市呼子町について、朝市や大綱引きといった歴史ある行事を含めて解説されました。その中で、一部町並みの重要伝統的建造物群保存地区選定を目

指す活動が紹介されました。また、活性化事業としては、企業と連携した古民家再生プロジェクト、新しい呼子体験企画や大学の研究や授業の受入れなどに取り組んでいると説明されました。

テーマ2：佐賀市街地に残る旧枝梅酒造の保存と活用～酒蔵部分の修復と活用に民間主体で取り組む～

講師：NPO法人まちの根太代表(株)とっぺん会長 武廣 正純 氏

旧枝梅酒造は、明治40年(1907年)に創業し平成21年(2009年)まで続いたことが冒頭に紹介され、この造り酒屋の醸造所跡の保存活動の歩みを伝えられました。続けて、現在は同法人が管理委託を請けている旧母屋・店舗、精米所跡、米倉庫跡を修理改装して飲食店や休憩所として活用しているほか、アトリエやギャラリーとして文化活動にも貢献している事例を発表されました。

これからも佐賀県支部では、継続的に技術懇話会を開催し佐賀県の技術者の輪を広げ、お互いに切磋琢磨しながら技術力の向上に努めて行ければと夢膨らませているところです。

所属：株式会社親和コンサルタント
(E-mail: yasu@sinwa-consultant.jp)

長 崎

県支部活動計画について

長崎県支部長 やまぐち あきみつ
山口 昭光
(農業・長崎)



7月下旬東北地方まで梅雨明けしましたが、戻り梅雨の空模様で暑くて湿度の高い毎日(8月上旬)が続いています。

学校が夏休みに入り子供たちの行動が活発になり、一日の日本の新型コロナウイルス感染者数(8月上旬)は世界で最も多くなっています。長崎県内の感染者数も全国同様に増加し二千人を超える毎日が続いています。支部活動において、高齢者が多い技術士会は3密対策をより徹底する必要があります。

2022年度支部年次大会を6月に開催することができました。年次大会へ35名の参加があり、2021年度事業報告と収支決算、2022年度事業計画と収支予算案を報告しました。今年度の活動は、研修会等の開催、合格者の会員加入、支部運営の充実を掲げ、研修会4回・見学会1回を計画しました。

最後に、昨年9月「技術士CPD活動実績の管理及び活用」制度が開始されましたのでその内容を報告

しました。

令和4年3月末の県内技術士登録者数は447名、長崎では県支部と長崎県技術士会の2つの技術士会があり、県支部会員は114名、長崎県技術士会会員は175名で、このうち62名が重複会員となっています。上記制度の県内技術士のCPD活動実績は、7月末の活動実績名簿を見るとおよそ30数名の方の名前が公表されています。公表を望まれない方もおられますが多く見積もっても50名には満たないのではないかと思います。活動実績の登録をされた方は県内技術士の約1割程度で、活用制度を利用して県内技術士の方を把握できるかと期待しましたが制度は活用されておらず技術士の方を把握できない状況です。また、残りの272名の方の情報がなく、制度の周知もままならない状況です。技術士登録者名簿公表を望むものです。

令和4年3月末の技術士登録者は約97千人です。聞くところによると、統括本部では更新にこだわっておられるようですが、数千人程度の実績しか出ていない状況では、指定登録機関としてのあり方そのものが問われるのではないのでしょうか。

最後に、年次大会に併せ第1回研修会を開催し52名の参加がありました。内容については、CPD報告をご覧ください。

所属：扇精光コンサルタンツ株式会社
(E-mail: a.yamaguchi@ougis.co.jp)

大分

大分県支部 年次報告会の開催

幹事(広報担当) **竹内 一博**
(建設・大分)



大分県支部と大分県技術士協議会では毎年恒例となっている「合同年次報告会」を大分市内のトキハ会館にて開催しました。今年もコロナ禍ではありますが幸い感染者数も低く抑えられている為、ソーシャルディスタンスの確保等、感染対策を十分に行ったうえで33名参集の下、今回は年次報告会、CPD研修会、その後懇親会を実施しました。

年次報告会は、畔津支部長が体調不良のため和田副支部長の挨拶で始まりました。続いて、事務局より令和3年度の事業報告(決算)及び令和4年度の事業計画(予算)の提案があり満場一致で承認されました。その他の報告事項としては各委員会報告が担当より、また事務局より技術士CPD活動実績の管理

及び活用制度について、技術士会専用マイページについてお知らせがありました。

CPD研修会では「水道」の歴史と今後の役割・期待」のテーマで上下水道部門の技術士である衛藤郁氏の講演がありました。



懇親会は、コロナ感染対策の整った会場にて新規合格者5名の参集の下、久しぶりに開催いたしました。新規合格者の挨拶では合格するまでの苦労話や今後の意気込み、決意をお聞きし頼もしく思いました。久しぶりの懇親会ということで非常に盛り上がり会員相互の親睦を深めることができました。



所属：株式会社みらいテクノロジー
(E-mail: k.takeuchi@mirai-tec.co.jp)

会員ニュース

公益社団法人 日本技術士会(九州本部) 入会

〈令和4年5月〉

(所在地)(区分)	(氏名)	(部門)	(勤務先)
大分 正会員	植木 英夫	電気電子	株式会社清電社
福岡 正会員	柿添 有紀	電気電子	株式会社九電工 本社 技術本部 電気技術部
福岡 正会員	右田 和寛	電気電子	株式会社九電工営業本部情報
		情報工学	通信部
佐賀 正会員	山田 佳之	化学	笹田・山田技術士事務所
福岡 正会員	江藤 満江	建設	株式会社唯設計事務所
福岡 正会員	黒田喜一郎	建設	九州コンサルタント株式会社 調査設計部
長崎 正会員	志方 宏敏	建設	佐世保市役所土木部
福岡 正会員	竹内 佳樹	建設	エヌエス環境株式会社
		環境	九州支店技術部
福岡 正会員	林 幸一郎	建設	応用地質株式会社流域・砂防 森林 事業部
		応用理学	
		総合技術監理	
福岡 正会員	東原 孝展	建設	西日本旅客鉄道株式会社新幹線鉄道事業本部
佐賀 正会員	小森 直樹	衛生工学	有限会社塩田環境開発
鹿児島 正会員	松鷲さとみ	衛生工学	国立大学法人鹿児島大学
鹿児島 正会員	鮫島 陽人	農業	鹿児島県大隅加工技術研究センター
福岡 正会員	中川 大輔	農業	日本工営株式会社
鹿児島 正会員	右田 広明	農業	株式会社南日本技術コンサルタンツ
福岡 正会員	村本 耕平	農業	朝倉市役所農林商工部
大分 正会員	森田 昌孝	農業	大分工業高等専門学校
福岡 正会員	新内 浩介	情報工学	新内技術士事務所
鹿児島 正会員	本田 和幸	情報工学	ほんた技術士事務所
		総合技術監理	
長崎 正会員	河内 昌史	応用理学	株式会社昭和ボーリング
福岡 正会員	田村 智弥	応用理学	西日本技術開発株式会社施設開発部
鹿児島 正会員	田畑 修一	建設	コスモコンサルタンツ株式会社技術部

福岡 正会員	中村由布奈	建設	基礎地盤コンサルタンツ株式会社設計部
福岡 正会員	内野 智文	情報工学	株式会社NTTドコモ九州支社 法人営業部

〈令和4年6月〉

(所在地)(区分)	(氏名)	(部門)	(勤務先)
福岡 正会員	水津 光央	電気電子	株式会社きんでん九州支社
長崎 正会員	大塚 正道	建設	E-tecsコンサルタント
熊本 正会員	草野 哲郎	建設	カンセイコンサルタント株式会社技術部
福岡 正会員	笹田 俊治	建設	九州電力株式会社土木建築本部
福岡 正会員	佐藤 大輔	建設	株式会社オリエンタルコンサルタンツ九州支社構造部
熊本 正会員	橋本 智恵	建設	株式会社熊本建設コンサルタンツ技術部
鹿児島 正会員	平川 英貴	建設	鹿屋市総務部
福岡 正会員	村山 貴裕	建設	株式会社ゼンリン生産統括本部DB制作本部DB制作推進部
福岡 正会員	持山 桂一	建設	日本工営株式会社
鹿児島 正会員	伏見 和代	衛生工学	株式会社PEO技術士事務所
熊本 正会員	佐藤 和也	応用理学	肥後地質調査株式会社技術部
大分 正会員	元浦 哲郎	応用理学	日本地研株式会社

〈令和4年7月〉

(所在地)(区分)	(氏名)	(部門)	(勤務先)
福岡 正会員	泊 将史	建設	日本工営株式会社 福岡支店 交通都市部
熊本 正会員	大山 智洋	農業	株式会社日本水工コンサルタンツ西部支店技術部
宮崎 正会員	高藤 守 森	林	宮崎県庁環境森林部
福岡 正会員	斉藤 明美	建設	株式会社三紀企画部

協 賛 団 体 会 員

<p>.....[福 岡].....</p> <p>(株)エム・ケー・コンサルタント (株)カミナガ (株)建設環境研究所九州支社 (株)建設技術研究所九州支社 (株)久栄総合コンサルタント 産業開発コンサルタント(株) (株)サンコンサル ジーアンドエスエンジニアリング株式会社 第一総合技術(株) 第一復建(株) 大成ジオテック(株) 大和コンサル(株) (株)高崎総合コンサルタント (株)テクノ 西日本技術開発(株) 西日本コントラクト(株) 日鉄鉱山コンサルタント(株)九州本社 日本工営(株)福岡支店 日本地研(株) 富洋設計(株)九州支社 平和測量設計(株) (株)ヤマウ (株)唯設計事務所 [北九州].....</p> <p>(株)永大開発コンサルタント (株)松尾設計</p>	<p>.....[佐 賀].....</p> <p>朝日テクノ株式会社 (株)エスジー技術コンサルタント 九州技術開発(株) (株)九州構造設計 (株)コスモエンジニアリング 新栄地研(株) (株)親和コンサルタント (株)精工コンサルタント (株)トップコンサルタント 西日本総合コンサルタント(株) 日本建設技術(株) [長 崎].....</p> <p>扇精光コンサルタンツ(株) (株)実光測量設計 大栄開発(株) 太洋技研(株) [熊 本].....</p> <p>(株)有明測量開発社 (株)九州開発エンジニアリング (株)熊本建設コンサルタント (株)建設サポートセンター (株)興和測量設計 (株)ヒライ・コンサルタント (株)水野建設コンサルタント</p>	<p>.....[大 分].....</p> <p>九建設計(株) 協同エンジニアリング(株) ダイエーコンサルタント(株) 東洋技術(株) 東洋測量設計(株) 西日本コンサルタント(株) (株)日建コンサルタント 日進コンサルタント(株) (株)富士設計 松本技術コンサルタント(株) [宮 崎].....</p> <p>(株)アップス 九州工営(株) (株)ケイディエム (株)国土開発コンサルタント (株)白浜測量設計 南興測量設計(株) (株)西田技術開発コンサルタント (株)東九州コンサルタント (株)都城技建コンサルタント [鹿 児 島].....</p> <p>(株)久永コンサルタント (株)南日本技術コンサルタンツ</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

次 回 の 予 告
(第134号 令和5年1月)

○九州本部第3回CPD報告

編 集 後 記

新型コロナウイルスのオミクロン株（BA1）による第7波の感染拡大がようやくピークを越え、ワクチンの追加接種は4回目から5回目へと進んでいますが、感染者数の把握方法の変更等も議論され始め、医療従事者の負担軽減や経済活動への制限解除等、バランスを取った対応が進んでいるように感じます。3年振りに開催されたお祭りやイベントも多く、コロナ禍の中でも、様々な活動との折り合いを付けながら、日常生活を取り戻す動きに期待しています。

世界に目を向けると、ロシアによるウクライナ侵攻は未だ終息せず、中国の大規模な軍事演習や、エリザベス女王の崩御等、日々目まぐるしくニュースが飛び込んできます。国内でも安部元総理の逝去や20数年振りの円高等、心休まる暇がないように感じます。そういった日常の中で、本誌が少しでも皆様の息抜きの場になれば幸いです。（松田）

編 集 : 広 報 委 員

- | | |
|---------------------------------------------|--------------|
| 【福 岡】 久保川孝俊、棚町 修一、西尾 行生
長野 義次、原田 正則、松田 敦 | 【佐 賀】 合志 勉 |
| 【北九州】 宮崎 照美 | 【大 分】 竹内 一博 |
| 【長 崎】 折田 定良 | 【宮 崎】 満留 康裕 |
| 【熊 本】 勇 秀忠 | 【鹿 児 島】 高畦 博 |

発 行：公益社団法人 日本技術士会九州本部
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前3-19-5
（博多石川ビル6階D2号室）
九州本部： ☎(092)432-4441
FAX(092)432-4443
E-mail:pekyushu@nifty.com
九州本部ホームページURL：
<http://www.pekyushu.com/>
印 刷：株式会社チューエツ